

文学部での学び方

1. 文学部での学び方 P1
 2. 文学部の英語プログラム P12
 3. 文学部 EMP (English Medium Programs) —AKADEMIA— . . . P16
 4. 日本語教師を目指すためのプログラム P19
 5. 各メジャーの履修モデル
 - ①英語文化メジャー P23
 - ②国際日本学メジャー P25
 - ③中国・アジア文化メジャー P28
 - ④ロシア・ヨーロッパ文化メジャー P32
 - ⑤哲学・思想文化メジャー P35
 - ⑥歴史・社会文化メジャー P39
 - ⑦言語文化メジャー P42
 - ⑧表現文化メジャー P46
 - ⑨社会学・人類学メジャー P50
 - ⑩多文化共生・平和創造メジャー P52
- ※AKADEMIA は上記 3.参照
※社会福祉専修については別途ガイダンスにてご案内いたします。

創価大学文学部

1. 文学部での学び方

☆文学部人間学科三指針—学部の理念・目的—

文学部は2007年に人間学科1学科の体制で新たにスタートしました。その際、創立者池田大作先生から、人間学科に以下の3つの指針を頂戴しました。

1. 生命の尊厳の探究者たれ
2. 人類を結ぶ世界市民たれ
3. 人間主義の勝利の指導者たれ、

文学部人間学科は、この3指針を学部の理念として、各界・各分野で本格的に活躍できる創造的人間の育成を目指しています。

ごあいさつ

晴れて創価大学文学部の一員となった皆さま、まことにおめでとうございます。教職員一同、心より歓迎申し上げます。ここでは、文学部のカリキュラムの内容と具体的な学習の進め方を説明します。文学部では、皆さまの興味・関心に合わせてさまざまな学び方をすることができますが、自身の学びをより効果的なものにするにはカリキュラムへの理解がとて重要で重要です。本冊子は、主に新入生用に作成されたものですが、専門のメジャーやゼミ、またその先にある進路を選んでいく際にも参考になるはずでです。自身にとってのよりよい大学生活のあり方をイメージしながら、またその先にある将来の夢や進路を考えながら、じっくりとお読みください。

(1) もっとも大切にしてほしいこと—「ライフデザイン力」を身につける—

文学部は、11のメジャーと1つの専修から構成されており、科目数は約350におよびます。皆さんは、この豊富なコース・科目群のなかから、自身の興味・関心や将来の目標にあわせて、かなり自由な履修選択をすることができます。しかしながら、**選択肢が多い、自由な選択ができることは、悩みのタネにもなります。**「選択肢が多すぎて何を学んでいいかわからない」、「どの分野を自身の専門とするか決めきれない」といった悩みをいただく方も、おそらく出てくると思います。また学問は、入門・基礎・応用の順で体系的に学んでいく必要がありますが、そのことを意識せずに好きな科目だけを履修していくと、体系的な学習ができず、専門力が身につかないという結果になってしまいます。選択肢の多さや自由度の高さは、大学での学びを充実させる大切な要素ですが、同時に悩みをもたらす可能性も持ち合わせているといえます。

そこで大切になるのが、自身の「学びのカタチ」をデザインしていく力になります。文学部では、この力を「**ライフデザイン力**」と呼んでいます。この呼称には、たんに授業の科目履修のデザイン力というだけでなく、授業以外での勉強やクラブ活動、アルバイト、インターンシップ、進路選択のための取り組みなども含めて、**自らの大学生活を総合的にデザインしていける力**という意味が込められています。科目履修や専門とするメジャー・演習の選択は、授業外のさまざまな活動と決して無関係ではありません。むしろこれらを一つの「**大学生活 (University Life)**」として捉え、それを総合的にデザインしていける力、そしてそれを**卒業後の人生 (Life)** に活かしていける力としての「**ライフデザイン力**」を身につけてほしい。これが文学部生に「最も大切にしてほしいこと」です。

もちろん、私たちは最初からこうした力を十分に持っているわけではないので、科目履修に悩むこともあるでしょうし、自らの選択を後悔することもあるでしょう。途中で学びの方向性を変える方もいると思います。それはまったく問題ありません。むしろそうした葛藤のなかでこそ、その後の自分を支えてくれる真の「ライフデザイン力」が磨かれます。一見、つながりのない科目を履修したように見えても、のちにそれらがつながって新しい発想が生まれることはよくあります。文学部の各メジャーの学問もそれぞれ深い関連性を持っており、横断的に学ぶことで得られる知見もあります。自らが主体的に、悩みながらも決断をくだし、そのために努力したことは、必ず自身の成長につながります。文学部生の皆さまには、ぜひ大学生活のなかで「ライフデザイン力」を身につけ、未来を生きぬく糧にしてくれることを願っています。

(2) 共通科目の学び—学習基礎力・教養基礎力を身につける—

ここでは「**共通科目**」の履修について説明します。「共通科目」は、学生に必要な学習基礎力と教養基礎力を身につけるための科目群です。

まず**1年次の春学期**には、「**初年次セミナー**」と「**学術文章作法**」を履修してください。「初年次セミナー」では、大学での学びに必要なアカデミック・スキルの基礎をトレーニングします。また、大学のしくみや施設の活用方法、学生生活上の注意事項や進路の考え方など、学生生活を円滑にするために必要なことがらを学んでいきます。「学術文章作法」では、大学生（とくにレポート課題の多い文学部生）にとって非常に大切となる学術的文章を書く力と、そのために必要な「問いを立てる力」を養います。**1年次の秋学期**には、「**データサイエンス入門**」を履修してください。この科目では、大学や実社会において必要とされるデータ・AIに関する知識や活用方法の基礎を学びます。

次に、卒業までに「**大学科目**」（4単位）、「**世界市民教育科目**」（4単位）、「**社会科学系科目**」（2単位）を修得してください。これらは、幅広い視野と他者理解・寛容の精神を身につけるために必要な教養基礎力を養う科目群です。「大学科目」では、創価大学の建学の精神や理念を学んでいきます。

文学部を含め、大学のカリキュラムはすべて建学の精神にもとづいて作られているので、それを理解することは大学での学びの充実を大いに助けてくれます。「世界市民教育科目」は世界市民として必要な広い視野や資質について、「社会科学系科目」は法学・経済学・社会学・心理学・教育学などの基礎について学びます。これらの科目は、4年間でバランスよく履修するようにしてください。

このほか、「共通科目」のなかの「**外国語科目**」、すなわち**英語**（6単位）、**第2外国語**（4単位）が必修になっています。英語は2年次までに、第2外国語は1年次のうちに修得することが望ましいです。また文学部には英語・中国語・ロシア語の学修プログラムがあり、これらの言語を上級レベルまで学ぶことができます。文学部独自の英語プログラムに関しては、このあとの「2. 文学部の英語プログラム」をご覧ください。

（4）専門科目の学び—自身の関心や目標に応じた学びのあり方をデザインしていく—

文学部に入学した皆さまの中には、学びたい分野がすでに決まっている方もいれば、まだ何を専門に学んでいくか考え中であるという方もいると思います。また文学部の中にも、中国語・ロシア語のように早くから多めに科目を履修したほうがいい分野もあれば、2年次以降に専門的内容の科目が充実してくる分野もあります。自身の関心や目標をしっかりと見据えながら、自分に合った履修選択をしていくよう心掛けてください。

なお、文学部の専門科目は、授業内容のレベルによって「**イントロダクトリー科目**」（入門）・「**ベーシック科目**」（基礎）・「**アドヴァンスト科目**」（上級）の3つに分けられています。このうちイントロダクトリー科目を6単位以上、ベーシック科目を28単位以上、アドヴァンスト科目を28単位以上修得することが、卒業の要件になっています。またメジャーの認定要件は、そのメジャーが指定するイントロダクトリー科目を2単位以上、ベーシック科目10単位以上、アドヴァンスト科目24単位以上、合計で36単位以上の修得です。

このほか、**科目ナンバリング**によるレベル分けも行われています。100番台は入門、200番台は初級、300番台は中級、400番台は上級、のレベルであることを意味します。イントロダクトリー科目は、すべて100番台です。ベーシック科目には100番台と200番台の科目がありますが、100番台はベーシック科目のなかでもより基礎的なレベルの科目という位置づけです。アドヴァンスト科目にも300番台と400番台の科目があり、多少のレベルの違いを設けています。科目履修の際には、この科目ナンバリングも参考にしてください。

① 入学時から専門的に学んでいくのが望ましい分野

文学部のなかには入学時から専門的に学んでいくのが望ましい分野があります。それは、

- i. 中国・アジア文化メジャーの「中国語プログラム」(中国語 DD コースを含む)
- ii. ロシア・ヨーロッパ文化メジャーの「ロシア語プログラム」
- iii. 社会福祉
- iv. 文学部 EMP (English Medium Programs) —AKADEMIA—

の4つです。

中国語 DD コースは1年次のうちに選考が行われますので、チャレンジしたい方は入学時に行われるガイダンスに出席し、科目履修のしかたや学習方法についての説明を受けてください。また DD コースに進まない場合でも、高いレベルの中国語能力を身につけたいと考えている方は、ぜひ1年次から積極的に中国・アジア文化メジャーの中国語科目(入門・初級レベル)を履修するようにしてください。同じく、高いレベルのロシア語能力を身につけたい方は、1年次からロシア・ヨーロッパ文化メジャーのロシア語科目(入門・初級レベル)を積極的に履修していくことを推奨します。ほとんどの方は大学入学後から中国語・ロシア語を学び始めるとお思いますので、できるだけ早くから本格的に学んでいくことが大切になってきます。このほか、社会福祉専修に進むことを希望する方も、入学時から「**社会福祉入門**」などの同専修の科目を履修していく必要があります。

以上の3分野については、春学期の授業開始前のオリエンテーションにおいてガイダンスが行われます(「中国語ダブル・ディグリーコースガイダンス」、「ロシア特別留学ガイダンス」、「社会福祉専修ガイダンス」)。これらのコースを希望する方は、ぜひガイダンスで詳しい説明を聞くようにしてください。

文学部 EMP —AKADEMIA— についての説明は、本冊子の16頁の「3. 文学部 EMP (English Medium Programs) —AKADEMIA—」に掲載されているので、そちらをご覧ください。

② 学びたい分野(メジャー)がまだ決まっていない方の履修

入学時にまだ進みたい専門分野(メジャー)が決まっていない方は、まずは各メジャーのイントロダクトリー科目を幅広く履修することを推奨します。おおよその目安として、1年次のうちに8~10単位(4~5科目)分のイントロダクトリー科目の修得を目指してください(1 Semesterに2つか3つの科目を履修する)。入学後の履修選択のときに、春学期・秋学期のそれぞれにどのような科目が置かれているかをチェックし、興味のある分野のイントロダクトリー科目はできるだけ履修するようにしてください。そして2年次が始まる頃には、進みたいメジャーを2つか3つにしぼり、

それらのメジャーのベーシック科目をバランスよく修得するようにしてください。例えば、Aメジャーの科目を10単位分、Bメジャーの科目を10単位分修得しておけば、メジャーを決めるときにどちらを選んでもよいことになります。また、2つのメジャーをともに専門的に学びたい場合には、ぜひダブルメジャーや副専攻（マイナー）の認定を目指してチャレンジしてみてください。

文学部では、入学後に自分が進む専門分野を決められますが、**迷っていらっしゃるの**は2年次の春学期までです。2年次春学期には演習（ゼミ）の個別ガイダンスが行われ、秋学期には演習とメジャーが決定します。ぜひこのときまでに、**自分が学びたいのはどのような分野の学問なのか、自分の能力や性格に合った分野は何なのか、大学時代の後半にどのようなことに取り組みたいのか**等をしっかりと考え、**決断を**くださるようにしてください。ただし、このことを一人だけで考えるのは大変ですので、文学部では1年次秋学期に「人間学」・「ピア・サポート実践Ⅰ」、2年次春学期に「**文学部の学びとライフデザイン**」という授業において、教職員と学生が一体となって皆さまの進むべき方向性について、対話を通して考えていく機会を設けています。

冒頭の(1)「最も大切にしてほしいことー「ライフデザイン力」を身につけるー」で述べたように、**文学部では「学びのカタチ」を自分自身でデザインしていける力がとても大切になります**。これは、ただ授業を受講しているだけでは身につかないものです。何かを「決める」ことは、なかなか大変ですが、社会のなかで自立した個人として生きていくうえでは避けて通れないことでもあります。ぜひ皆さまには、文学部のなかでの葛藤やチャレンジの経験を通じて「自己決定力」を磨き、それを社会のなかでも発揮して行ってほしいです。

③ 学びたい分野（メジャー）がすでに決まっている方の履修

入学時にすでに進みたい専門分野（メジャー）が決まっている方は、履修モデルを参考としながら、1年次からそのメジャーの科目を積極的に履修していくことを推奨します。イントロダクトリー科目については、1年次のうちに、希望するメジャーの科目の1つ以上、秋学期に開講される「人間学」（もしくは「**Introduction to Humanities**」）を合わせて6単位分の科目を履修しましょう。またベーシック科目についても、希望するメジャーの科目（1年次履修可の科目。科目ナンバーが100番台のものがお薦めです）を積極的に履修していきましょう。なお、1年次から履修できるベーシック科目の数は、メジャーによって異なります。傾向としては、「歴史・社会文化メジャー」と「社会学・人類学メジャー」は1年次から履修できるベーシック科目が少ないので、1年生のうちには共通科目（大学科目や世界市民教育科目）を1セメスターに1つか2つずつ、バランスよく履修していき、2年次以降にメジャーの専門科目を多く履修できるようにしておくのが理想的です。その他のメジャーは、1年次履修可のベーシック科目が比較的多いので、早くから専門的内容を学ぶことが可能に

なります。

2年次には、希望するメジャーのベーシック科目を積極的に履修してください。3年次以降にゼミに所属し、より専門的な内容を学んでいくうえで、2年生のうちに基礎を固めておくことはとても大切です。またメジャーの学びをより深めていくためには、そのメジャーのベーシック科目をより多く履修していくことが大切です。ベーシック科目のメジャー認定要件は10単位ですが、専門性を深めていきたい方はそのメジャーの科目をさらに多く（20単位以上）履修することをお勧めいたします。そのうえで、履修に余裕があるようなら、2年次履修が可能なアドヴァンスト科目（300番台）を履修してみるのもよいでしょう。ただし、アドヴァンスト科目は3・4年生の履修を想定して設けられていますので、2年次のうちにあわてて履修する必要はありません。

④ 文学部の理念・しくみを理解し、それを「ライフデザイン力」を結びつけていくための授業

－「人間学」・「文学部の学びとライフデザイン」・「ピア・サポート実践Ⅰ・Ⅱ」－

専門科目のなかで、文学部の理念や3指針について学んでいくのが、1年次秋学期に開講される「人間学」です。この授業では、専門分野の異なる教員が、それぞれの専門性をベースとしながら人間学科の3指針に関する講義を行います。この授業を受講することにより、文学部のなかにある専門分野の特徴への理解が深まりますし、同時にそれぞれの専門分野がすべて「人間」理解のためのものであることも見えてくると思います。また「人間学」では、アドバイザー教員とともに2年次以降の「学びのカタチ」や大学生活のあり方を一緒に考えていく機会を設けています。この授業で学ぶことを、自身の人生プランや人間的成長へと結びつけていこう！ぜひそうした意識をもって「人間学」を受講してほしいです。

2年次春学期には、「文学部の学びとライフデザイン」が開講されます（AKADEMIAのコースで学ぶ方は、「Academic Foundations for Humanities」を履修してください）。この授業では、2年次以降に本格化する専門分野に関する学びと、その先にある「ライフデザイン」とをどのように結びつけていくのがいいのかを、みなで学び、考えていきます。この授業の開講時期には、3年次以降の専門的な「演習」（ゼミ）のガイダンスも実施されます。このときに自身が学ぶべきメジャー・演習についてしっかりと情報を集め、真剣に考えていくことができれば、2年次秋学期において迷いなく決断することができるでしょう。

このほか、選択科目として「ピア・サポート実践Ⅰ」・「ピア・サポート実践Ⅱ」という科目が設けられています。ピア・サポートとは、学生の学生による支援のことです。「ピア・サポート実践Ⅰ」は、文学部のカリキュラムの考え方やしくみへの理解を深めるとともに、SA（Student Assistant）サポートスタッフ等として文学部の1・2年生や受験生をサポートするのに必要な知識やスキル、態

度を学び、自他ともに成長を実現していくための基礎力を養っていく授業です。そして「ピア・サポート実践Ⅱ」は、「ピア・サポート実践Ⅰ」で学んだことを踏まえ、実際に「初年次セミナー」のSAやその他のサポートスタッフとして、実践を通してさらに学びを深めます。自分自身が文学部でのより良い学びのあり方を見つけたい、文学部の仲間や受験生を適切にサポートするための実力を身につけたいという方は、ぜひこれらの授業を受講してみてください。

⑤ 2つの専門分野を学びたい方へ—ダブルメジャー・マイナー（副専攻）制度の活用—

文学部独自の制度として、2つの専門分野（メジャー）を学ぶことができる**ダブルメジャー制度**があります。文学部のメジャー制では、各メジャーの科目群のなかからイントロダクトリー科目 2 単位、ベーシック科目 10 単位、アドヴァンスト科目 24 単位（「演習Ⅰ～Ⅳ」・「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」12 単位を含む）の合計 36 単位を修得するとメジャー修了認定が得られます。このほかに**ダブルメジャー（第2メジャー）**の認定を希望する場合には、そのメジャーの科目群からイントロダクトリー科目 **2 単位**、ベーシック科目 **10 単位**、アドヴァンスト科目 **12 単位**、その他（ベーシック科目とアドヴァンスト科目のなかから選択）**12 単位**の合計 **36 単位**を修得する必要があります。「演習」と「卒業研究」は、第1メジャーでのみ履修ができます。ダブルメジャーの認定を希望する方は、3年次以降に申請を行ってください。申請を行ったうえで、卒業時に規定の単位数を修得していれば、ダブルメジャー修了の認定をいたします。なお、1つの科目が複数のメジャーの科目となっている場合が多いですが、イントロダクトリー科目を除き、1つの科目を2つのメジャーの科目としてダブルカウントすることはできません。

また、1つの専門分野（メジャー）を学びながら、他の分野を副専攻（マイナー）として学ぶこともできます。副専攻の認定には、イントロダクトリー科目 2 単位、ベーシック科目 10 単位、アドヴァンスト科目 12 単位の合計 24 単位の修得が必要です。これは大学全体の副専攻制度によって行われますので、詳細を知りたい方は『履修要項』の副専攻制度の説明をお読みください。質問がある場合には、教務課か文学部事務室まで問い合わせてください。

⑥ 専門分野の学び—「演習」のガイダンス・登録、「卒業研究」の履修—

大学生活のなかで、もっとも大学らしいといえる授業が少人数の**「演習」**（AKADEMIA の方は**「Seminar in Humanities」**）です。「演習」は、指導教員と少人数の学生でプレゼンテーションや質疑応答、ディスカッションなどにより進められるゼミナール形式の授業で、教員・学生間で双方向／多方向的な双方向的なコミュニケーションが交わされ、相互学習と理解が深まります。文学部で

は、社会福祉専修を除き、「演習」の選択時にメジャーの決定が行われます。ぜひ演習ガイダンス等で教員や3・4年生と話し合いの機会を持つなどして多くの情報を集め、ゼミのテーマや進め方が自身の興味・関心に合っているかどうか、教員の人柄や演習の雰囲気は自分に合っているかどうか、将来の希望に向けてどの教員の演習で学ぶのがもっとも効果的か、などを十分に考えたうえで「演習」の選択・登録にのぞんでください。

「演習」の選択は、**2年次春学期の演習ガイダンス**から始まります。6月にメジャーごとの演習ガイダンス、6月末～7月初旬に各教員による個別ガイダンスが行われます。まずはここで、各メジャーにどのような専門分野の「演習」があるのか、各教員がどのような方針で授業を進める予定であるのかを、しっかりと把握するようにしてください。また「文学部の学びとライフデザイン」のなかでも、「演習」に関する内容が取り上げられますので、それもぜひ参考にしてください。

ここで、「演習」の選択方法の例をあげておきます。まず、すでに希望のメジャーがはっきりしている場合には、そのメジャーを担当する教員の「演習」のなかから選ぶようにしてください。選考の結果、希望の教員の「演習」に入れないケースもありますので、第2、第3希望も考えておくといよいでしょう。次に、希望のメジャーは明確ではないが、この分野のことを学びたい、あるいはこの教員の指導を受けたい、という考えで「演習」を選ぶ場合もあると思います。その際には、その教員がどのメジャーを担当しているかを確認しましょう。これまで自分が修得・履修してきた科目がそのメジャーの科目群のなかにほとんどない場合には、1・2年次の学びと「演習」がうまく結びつかないということなので、あまりお勧めできません。それでもその教員の「演習」で学びたい場合は、2年次秋学期からそのメジャーの科目を積極的に履修するようにしてください。なお、選考の結果により希望する教員の「演習」に入れないケースもありますので、第2、第3希望も考えておきましょう。

2年次秋学期には、**演習の登録と選考**が行われます。演習登録はちょうど大学祭の開催直前の時期と重なりますが、「演習」で何を学ぶかは3年次以降の大学生活やその後の進路にまで大きく影響しますので、ぜひ集中して登録にのぞんでください。春学期中、あるいは夏休み中に登録先を決めておくことをお勧めいたします。また「演習」の決定時には、3年次春学期に登録する自身のメジャーの決定も行われますので、そのことも意識しながら演習の登録と選考をすすめてください。

3年次春学期から始まる「演習」のゴールは、4年次秋学期における**卒業研究**の作成です。4年次の春学期・秋学期には、「卒業研究Ⅰ」・「卒業研究Ⅱ」(AKADEMIAの方は「**Independent Research Project I**」・「**Independent Research Project II**」)を履修してください(実際の授業は開講されません。履修登録画面では授業外の時間に設定されていますので、登録するだけで大丈夫です)。卒業研究では、12,000字相当の学習成果物を作成することが求められます。卒業研究として認められるのは、①卒業論文、②リサーチペーパー、③共同研究による論文、④プレゼンテーション、⑤小説など

の作品+論説、などがありますが、その認定基準は教員によって異なります。例えば、A先生は①卒業論文と④プレゼンテーションの両方を認めるが、B先生は①卒業論文しか認めない、となります。各教員が何を卒業研究として認めるかは「演習」の選考時のシラバスに明記していますので、「演習」選びの際にはこのこともぜひ確認するようにしてください。なお、16000字以上の論文に相当する卒業研究を作成する場合には、選択科目の「卒業研究Ⅲ」（AKADEMIAの方は「**Independent Research ProjectⅢ**」）を履修することができます。「卒業研究Ⅲ」は、教員の許可を得た場合にのみ履修ができますので、指導教員としっかり話あったうえで履修するようにしてください。

(5) 大学での学びと課外活動（クラブ・サークル活動、学生団体での活動）、アルバイト

皆さまのなかには、大学生活の充実のために**課外活動**（クラブ・サークル活動、学生団体での活動）に取り組みたい、また経済的な必要性から**アルバイト**をしたいという方もいると思います。これらは授業ではなく、単位が認定されることもありませんが、大学時代にしか経験できない貴重な学びの機会になりうるものです。ただし、課外活動・アルバイトに力を入れるあまり、授業への出席や課題の提出がおろそかになり、成績が悪化してしまうこともあります。そこで大切になってくるのが、**セルフマネジメント力（自己管理能力）**です。1日／1週間／1ヶ月／1年間のうち、どのくらいの時間とエネルギーを授業の予習・復習や課外活動、アルバイト等に当てるのか、自分なりのプランをしっかりと立てて日々の生活を送るよう心掛けてください。また**課外活動やアルバイトを、授業での学びや将来の進路選択に結びつけていくことも、自身のライフデザインを考える上でぜひ意識してほしいです**。文学部で学ぶことができる社会学・人類学・哲学・言語学・文学・歴史学などは、いずれも人間の営みを研究する分野であり、皆さまの日々の生活体験と切り離されたものではありません。課外活動やアルバイトでの経験が卒業研究のテーマの決定や将来の進路選択に結びつくこともよくあります。ぜひ大学生活のなかで経験することのすべてを、自身の学び・成長の糧としていくつもりで日々を過ごして行ってください。

文学部を卒業し、新しい生活へ

こうして晴れて入学し、充実した学生生活を過ごしたのち、見事に卒業を勝ち取った皆さんは、いよいよ社会へと大きく羽ばたいていくことになります。文学部生には企業就職の他に、**教員や公務員**、通訳や翻訳など語学を生かした**専門職**、国内や海外の**大学院**に進学するなど、多くの進路が開かれています。文学部のカリキュラムは、未来の可能性に満ちた皆さんを応援するためにあります。皆さん一人ひとりが夢や将来の希望をもって未来を切り開いていかれることを願います。

繰り返しになりますが、文学部のカリキュラムの大きな特徴は、多様な分野の学問を、さまざまな方法によって学ぶことができる「学びの多様さ」という点にあります。しかし、その多様さのなかで自分が学ぶべき専門領域や進むべき進路を決めていくことは、決して簡単ではありません。文学部のカリキュラムの特徴を最大限に生かすためには、自己の特性を知り、自身に適した学び方を見つけ、実践していく姿勢を主体的にもつことが求められます。未来が見とおせず、変化も激しい現代社会では、自己の適性を把握しながら、主体的にものごとを判断し、決断・実行していく能力、また変化に対して柔軟に対応し、新しい情報やスキル・価値観などを学びつづける能力が重要となります。そこで文学部では、教職員と学生が協働しながら、皆でこれらの能力をもつ「自律的学習者」へと成長していくことを目指しています。豊かなコミュニケーションと相互の支えあいのなかで、自身が進むべき方向性について悩み、相談し、決断し、実行する。そしてその結果を振り返り、再び自分の方向性を考えていく。そしてこのプロセスのなかで、教職員・学生が協働し、悩みや喜びを分かち合いながらともに「人間力」をはぐくんでいく。これが文学部の目指す教育像です。

わからないことがあれば、どんな小さなことでも、気軽に問い合わせて下さい。創価大学のWEBサイトにある文学部のホームページには、教員やゼミの紹介もあります。教員のEメールアドレスも公表（一部非公開）しています。自分の勉強したいことについて、直接教員に相談するのもいいでしょう。未来に羽ばたく皆さんに、文学部の扉は常に開かれています。

文学部カリキュラムマップ

1年次		2年次		3年次		4年次	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
初年次セミナー (共通科目：必修)	人間学 Introduction to Humanities (選択必修)	文学部の学びと ライフデザイン Academic Foundations for Humanities (選択必修)		演習Ⅰ Seminar in HumanitiesⅠ (選択必修)	演習Ⅱ Seminar in HumanitiesⅡ (選択必修)	演習Ⅲ Seminar in HumanitiesⅡ (選択必修) 卒業研究Ⅰ Independent Research ProjectⅠ (選択必修)	演習Ⅳ Seminar in HumanitiesⅡ (選択必修) 卒業研究Ⅱ Independent Research ProjectⅡ (選択必修)
イントロダクトリー科目 (選択科目：4単位以上)							
ベーシック科目 (選択科目：26単位以上)							
SOKAジェネリック スキルテスト		アドバンスト科目 (選択科目：16単位以上)					
社会福祉専 修選考		演習(ゼミ)ガ イダンス	演習(ゼミ) 事前登録	第1メジャー 登録			
中国語DD 選抜試験		副専攻登録 (マイナー・EMP登録)					
				第2メジャー登録			
自由選択科目 (36単位以上)							

2. 文学部の英語プログラム

文学部英語プログラムは、共通科目英語科目の English I-IV と連動しています。1年次には共通科目英語科目 English I, II、2年次に English III, IV を履修してください。その上で、B: Elementary (TOEIC 290-395 点)以上のレベルの方は、以下にある「文学部英語プログラム科目群と受講基準」を参考に自身の英語学習の目的や興味、関心に沿って科目を選び履修してください。文学部英語プログラムの中核である English for Humanities A I, II または English for Humanities B I, II から始めるのを推奨しますが、必ずしもそのようにする必要はありません。共通科目英語科目 English I-IV を履修しながら、同時に文学部英語プログラムの科目を学期に1または2科目履修するのが目安です。1年次から積み上げ、3, 4年次には「文学部英語プログラム科目群と受講基準」の最上位にある科目を履修できるようになることが理想です。

文学部英語プログラム科目群と受講基準

レベル	春学期	秋学期
D+(Advanced Intensive): TOEIC625 点以上	Literature I Cultural Representation I Text Studies I	Literature II Cultural Representation II Text Studies II
D (Upper Intermediate) : TOEIC490-620 点	英語で日本紹介 I Academic Writing B 英語通訳演習 A (500 点以上) 英語通訳演習 B (550 点以上)	英語で日本紹介 II 英語通訳演習 B
C (Intermediate) : TOEIC 400-485 点	Academic Writing A 日英翻訳演習	Academic Writing A 日英翻訳演習
B (Elementary) : TOEIC290-395 点	English for Humanities A I English for Humanities B I Oral Communication in English I	English for Humanities A II English for Humanities B II Oral Communication in English II 英語翻訳入門
A (Basic) : TOEIC290 点未満	共通科目の English I・II レベル A で学び、レベルを B に上げたあとに上記英語科目の B レベルを履修する。	

共通科目英語科目との連動

共通科目英語科目 English I-IV においては、TOEIC のスコアによるレベルに加え、ヨーロッパ言語共通参照枠 (Common European Framework of Reference for Languages: CEFR) に準拠したレベルを示すようにしています。CEFR は英語や諸外国語の習熟度や運用能力を示す世界基準のことで、外国語を教える教育機関等において CEFR のレベルを示すことが一般的になってきています。CEFR のあるレベルに到達したということは、世界中どこでも、同じ習熟度、運用能力があることを示しています。共通科目英語科目 English I-IV において、この CEFR の基準が示されていますが、それらの科目の履修は 1, 2 年次で終了します。文学部英語プログラムでは、それを引き継いで 3, 4 年次まで CEFR の基準を示した英語科目を配置し卒業まで継続的に英語を学ぶ体制を整えていきます。

ヒューマニスティックアプローチ

文学部英語プログラムではヒューマニスティックアプローチ¹を採用します。これは、暗記や(覚えたことの)再現に偏らず、自分が言いたい、書きたいと思うことを表現できるようにすること、また自律性や目的意識、動機づけ、協調性、レジリエンスなどの情意的な要素を重んじる指導方針です。英語をはじめ外国語の学習では否応なく異文化に接することになります。同時に、昨今のコミュニケーション中心の授業では話すことが重んじられ、学習者は外国語で周囲の人と話したり、或いは皆の前で発表したりする機会も多くなっています。そこでは、未知のものに自分の心を開いて受け入れ、関わろうとすること、また失敗することを覚悟して挑戦するという姿勢が大事になります。その時、場合によっては、それまでの自分の信念や価値観を変える必要が生じます。「異文化なんか知る必要はない」とか、「外国語で人と話すのはいやだ」など多くの人が思うかも知れません。しかし、外国語を学ぶにはどうしてもこうした自分の信念や価値観を変えながら、新しい状況に適応していく必要があるのも事実です。信念や価値観を変えたり、新しい状況に適応したりするためには、暗記したり覚えたことを再現したりするだけでは不十分です。失敗を繰り返しながら、自分が言いたいことを言い、書きたいこと書き、周囲から受け入れられた時にこそ、人は自分を認め、自分らしく開花していくものです。文学部英語プログラムではそのような経験を積んでほしいと願っています。

¹ 白畑知彦・富田祐一・村野井仁・若林茂則. (2009). 『英語教育用語辞典』 東京：大修館書店.

多様な科目群

文学部英語プログラムには、大きく分けて、コミュニケーション・4スキル統合型、コミュニケーション・異文化理解、翻訳・通訳、アカデミックライティング、文学・テキスト分析の科目群があります。これらの中で、異文化理解、翻訳・通訳、文学・テキスト分析などは他の学部にはない文学部ならではの科目群です。異文化理解では、映画の視聴を通して文化の多様性について考えたり、日本の文化を英語で紹介したりする方法を学びます。翻訳・通訳では日本語から英語、英語から日本語へ翻訳、通訳する技術を磨きます。文学・テキスト分析では、英米文学作品の分析、鑑賞をしたり、多彩なテキストの分析方法を習得したりします。これらの科目は日本語や日本文化の大切さや伝統を重んじる文学部であるからこそ提供できる科目です。

留学制度の利用

a. 短期語学研修

文学部では、イギリス・バッキンガム大学において夏季短期語学研修を実施しています(12-14名、説明会開催および募集時期4月頃)。申し込み時期を逃さないようにメールのお知らせや募集の掲示ポスターに注意してください(事情により中止する場合があります)。

b. 大学の留学制度を利用する

創価大学には、留学をしたい学生の目的に応じて、交換留学、認定留学、海外短期研修といった多彩な留学制度を用意しています。自分自身の目的に合った留学制度を探し留学に挑戦してみましょ！まずは情報収集から始めましょう。次の3つの方法で情報を集めることができます。

- 留学情報ステーション：留学に関する雑誌や留学に行った先輩方の帰国報告書等を読むことができます。
- 国際課職員との留学相談：創価大学の国際課職員に相談してみましょう！国際課では、創価大学が行う交換留学や短期海外研修、海外インターンシップ、海外ボランティアなどのプログラムを担当しています。
- ワールド会との留学相談：留学を経験した学生の有志団体「創価大学ワールド会」の先輩に相談してみましょう！

交換留学などの応募については、応募資格として一定の語学能力を有することが条件となります。そのため派遣先大学の規定の TOEFL-iBT や IELTS のスコアを確認し、そのための英語学習をする

必要があります。各英語資格試験対策の授業を履修し、準備することをお勧めします。

英語科教員を目指す場合

中学・高校の英語教員を目指す方は教職キャリアセンターのガイダンスに必ず出席をして今後の日程や履修方法を理解しましょう。教職課程履修登録者に配布される『教職課程ガイド 2024』の「文学部人間学科【英語】」の「A 教科及び教科の指導法に関する科目」「B 教育の基礎的理解に関する科目等」「C 66 条の 6 科目」の科目一覧から必修科目を優先的に履修していきましょう。

3. 文学部 EMP (English Medium Programs) —AKADEMIA—

EMP (English Medium Programs) は、留学生・日本人学生ともに英語の授業のみで卒業できるコースの総称で、そのなかにある文学部独自のプログラムが **AKADEMIA (アカデミア) 【哲学・社会人類学・平和学メジャー】** です。AKADEMIA は、文学部 11 メジャーのなかの一つで、哲学・社会人類学・平和学を中心とした学際的かつ国際的な学位プログラムです。授業はすべて英語で行われます。英語が流暢な留学生が専門分野の学位を取得できるプログラムである一方で、日本人学生にとっても留学生と共に大学レベルの学習を体験できる貴重な機会となります。

AKADEMIA では上記の三つの分野の他にも、国際日本学、比較文化、宗教人類学、創価教育学、仏教学なども学ぶことができます。これらの授業の多くで、ジェンダー、人種、多様性、持続可能性といった、地球市民として行動するために考えるべきグローバルな問題が扱われます。このような分野横断的なプログラムを通して、世界市民・地球市民とは何か問い、自分にしかできない価値創造を世界のどこにいても実践できる人材の育成を目指します。

◇AKADEMIA で学びたいと考えている方へ

ハイレベルな英語のコミュニケーションスキルと専門性を身につけたい方は、ぜひ AKADEMIA のプログラムにチャレンジして下さい。留学生とともに英語の授業を受けられる AKADEMIA では、創価大学にいながら海外の大学に留学するのと同じような体験ができます。

EMP の留学生は、4月入学の学生から約半年遅れの9月に創価大学に入学します。そこで4月入学の皆さんが AKADEMIA の授業の受講を希望する場合は、9月までに EMP 留学生とともに英語の授業を受けられるだけの英語力を身につけることが理想的です。そのための科目として設けられているのが、「**Developing English for Academic Purposes I**」(春学期)です。AKADEMIA のプログラムを学びたいと考えている方は、まずはこの科目を履修してください。また秋学期には、「**Developing English for Academic Purposes II**」を履修し、さらなる英語力の向上につとめるようにしてください。AKADEMIA の科目を受講できる英語レベルの目安は TOEIC スコア 600 点以上なので、まずはそこを目指して英語学習に励んでほしいです。なお、これらの科目は AKADEMIA のプログラムを学ぶつもりがない方であっても履修することができます。また、AKADEMIA の科目の一部を履修して他の科目やゼミは日本語で履修することも可能ですので、シラバスを見て興味を湧いた授業があれば積極的に履修してみてください(英語に不安があるという場合は自由聴講という形で参加することもできます)。

このほか、1年次春学期には「初年次セミナー」・「学術文章作法」や「大学科目」・「世界市民教育科目」・「社会科学系科目」など卒業のために修得が必要な科目をいくつか履修するとともに、共通

科目群のなかにある英語科目を受講して英語力向上につとめるようにしてください。

秋学期には、EMP 留学生とともに、イントロダクトリー科目の「**Introduction to Humanities**」と「**Introduction to Soka Akademia**」を履修してください。この授業のなかで、AKADEMIA のプログラムの理念や概要が説明されます。

ベーシック科目・アドヴァンスト科目は以下の通りです。

ベーシック科目 (Year 1-2 Basic Level)

Academic Foundations for Humanities (2 credits)

Anthropological Approaches to Contemporary Japan (4 credits)

Comparative Culture: Anthropology (4 credits)

Philosophy I: Core Issues in Metaphysics, Epistemology and Ethics (4 credits)

Philosophy II: Contemporary Philosophy and Buddhism (4 credits)

Introduction to Peace Studies I (4 credits)

Introduction to Peace Studies II (4 credits)

Academic Writing A and/or B (2 credits each)

アドヴァンスト科目 (Year 2-4 Advanced Level (General))

Metaethics (4 credits)

Anthropology of Religion (4 credits)

Peace Studies Workshop (4 credits)

Translation Studies (2 credits)

3年次の演習 (Year 3 Major Classes Advanced Level (Seminars in Humanities))

Seminar in Humanities 1 & 2: Anthropology of Japan/Global Japan (4 credits)

Seminar in Humanities 1 & 2: Philosophy (4 credits)

Seminar in Humanities 1 & 2: Peace Studies (4 credits)

4年次の演習 (Year 4 Seminar classes and research graduation thesis)

Seminar in Humanities 3 & 4: choose one of three Majors (4 credits)

Independent Research Project I (2 credits)

Independent Research Project II (2 credits)

Independent Research Project III (2 credits)

Advanced Joint Seminar for AKADEMIA (2 credits)

AKADEMIA に関する詳しい内容を知りたい場合には、担当教員であるフィスカーネルセン教授、蝶名林准教授（日本語での対応も可能）まで直接お問い合わせください。

4. 日本語教師を目指すためのプログラム

外国人に日本語を教える仕事が「日本語教師」です。国内・国外を問わず、日本語学習を必要とする外国人が大勢います。従来の日本語教育は海外が主戦場でしたが、近年は国内でも日本語補助を必要とする児童、労働者、配偶者などが急増しており、日本語教育の必要性が指摘されています。

2024年度から施行される「登録日本語教員」制度は国家資格です。「基礎試験」「応用試験」「実践研修」の三段階を経ることで資格が取得できます。本学の養成課程で26単位を修めると「基礎試験」が免除となります。また、本学では、日本語教育実習を科目の1つとして実施することにより、「実践研修」の免除にもなり、国家資格の取得の後押しをしています。

1. 日本語教育（基礎）プログラム

● 到達目標 基礎試験免除に相当する日本語教育に必要な基礎的な知識・能力を身につける

● 概要

日本語教師として必要な最低限の知識や技能を学べるプログラムです。人間学科生なら、どのメジャーからでも学べる、副専攻的な位置づけのプログラムです。文学部以外の学生も履修可能です。

基礎プログラムはあくまでも登録日本語教員資格の「基礎試験」免除の段階を達成させるものであり、本格的な日本語教師を目指す人は、「日本語教育実習」と応用プログラムまで進んでください。しかし、小中高校の教員免許を取得予定の学生は、本プログラムを履修しておくことで小中学校での日本語支援にも貢献できる資格と技能が得られるため、サブ的な履修をお勧めします。本プログラムの履修者には修了書を発行します。国語教職を主目標に、基礎プログラムの修了書の取得を目指すことを推奨しています。

● カリキュラム

日本語教育科目のうち、6科目必修（日本語教育概論Ⅰ、Ⅱ、現代日本語文法A、B、日本語教授法Ⅰ、Ⅱ）と、選択必修3科目（言語コミュニケーション論、日本語音声学、日本語教材研究Ⅰ、Ⅱ、日本語の語彙表記、音声学概論）と、選択4科目の、計13科目26単位を修得する。

*日本語教育科目

授業科目	単位	年次	授業科目	単位	年次
言語文化入門	2	1	日本語の表現	2	2
日本語教育概論Ⅰ*	2	1	日本語の語彙・表記*	2	2
日本語教育概論Ⅱ*	2	1	日本語教材研究Ⅰ	2	2
日本語学概論Ⅰ*	2	1	日本語教材研究Ⅱ	2	2
日本語学概論Ⅱ*	2	1	日本語教授法Ⅰ	2	2
言語コミュニケーション論	2	1	日本語教授法Ⅱ	2	3
言語学概論Ⅰ	2	2	年少者日本語教育	2	3
言語学概論Ⅱ	2	2	多言語社会と言語政策	2	3
音声学概論	2	2	日本語教授法演習(注1)	2	3
対照言語学Ⅰ	2	2	日本語教育実習(注1)	2	3
対照言語学Ⅱ	2	2	演習Ⅰ(日本語)(注2)	2	3
日本語音声学*	2	2	演習Ⅱ(日本語)	2	3
社会言語学	2	2	演習Ⅲ(日本語)	2	4
現代日本語文法A*	2	2	演習Ⅳ(日本語)	2	4
現代日本語文法B*	2	2	(金子・山岡・大塚・斉藤・神村ゼミ)		

*国語教職の「国語学」分野の科目と同一の科目です。

(注1)「日本語教授法演習」は、必修6科目+選択必修3科目が終了した学生のみが受講できます。

「日本語教育実習」は「日本語教授法演習」の履修を終えた学生が実習に進むことができます。

(注2)「演習」の単位は応用プログラムにのみ適用されます。

2. 日本語教育（応用）プログラム

- 到達目標 応用試験合格を目指し日本語教育に必要な専門的な知識・能力を身につける
- 概要

本格的な日本語教師を目指す学生のためのプログラムで、言語文化メジャーに所属する学生を対象にしています。「登録日本語教員」の資格は、26単位の取得で「基礎試験」免除、「日本語教育実習」の受講で実践研修免除となりますが、最終的には「応用試験」に合格しなければなりません。教育機関として提供できる免除制度はここまでで、「応用試験」免除の制度はなく、自力で受験して合格する必要があります。そのため、「登録日本語教員」の国家資格取得を目指す学生は、さらに一歩進んで、応用プログラムの受講をお勧めします。具体的には、演習科目を受講する学生が主な対象となります。登録日本語教員資格の応用試験に合格することのみが、応用プログラムの目的ではなく、大学院進学、就職、国語教師の志望者にも役立ちます。本プログラムは国語教職科目との重複が多いため、両方履修しておくことで進路の可能性が広がります。大学院に進学した場合には専修免許も取得可能となり、小中学校での日本語支援にも貢献できる資格と技能が得られます。

● カリキュラム

言語文化メジャーのメジャー共通科目および日本語科目から 45 単位以上、そのうち日本語教育科目（*上表）から 38 単位以上修得する。

*登録日本語教員の応用試験に合格することが修了要件ではなく、上記の単位を取得すれば修了できます。

日本語教育（基礎）プログラムに限り、入学時だけでなく 4 年次春学期終了までのいつの時点でも登録できます。但し、計画的な履修が望ましく、なるべく早めの登録をお勧めします。

（参考）日本語教員資格について

文部科学省は従来、日本語教員資格の目安として、「1. 大学（短期大学を除く）において日本語教育に関する主専攻（日本語教育科目 45 単位以上）を修了し、卒業した者。2. 大学（短期大学を除く）において日本語教育に関する科目を 26 単位以上修得し、卒業した者。3. 日本語教育能力検定試験に合格した者。4.（省略）」を提示しています（日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改訂版平成 31 年 3 月 4 日文化審議会国語分科会 p113~p115 参照）。

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/kokugo/kokugo_70/pdf/r1414272_04.pdf

日本語教育プログラムを目指す皆さんへ

プログラムリーダー 文学部教授 齊藤信浩

相互尊重の精神に基づく異文化交流と、双方向的な言語教育が現代では求められています。外国語の力を身につけた人材の重要性もさることながら、外国人に日本語を教えることができる人材も、それと同様に求められています。前者に比べて後者は簡単なことのように思えるかもしれませんが、無意識のうちに日本語の音韻や文法を習得してきた日本人にとって、それらを外国人に意識的に、かつ体系的に教えることは決して簡単なことではなく、一定の専門的な知識と技能を必要とします。したがって、生涯の職業として日本語教師を目指す学生には日本語教育（応用）プログラムへの登録をお勧めします。また、海外での仕事を希望している学生なら誰でも、一時的な職業として、あるいはボランティアとして、日本語教育に携わる可能性がありますので、メジャーに関わりなく、日本語教育（基礎）プログラムへの登録をお勧めします（他学部生も）。世界と日本の架け橋になる日本語教師が創大生の中から多く育っていくことを期待しています。

【日本語教員への道】

日本語教師を募集している機関は、

- ① 日本語学校…国内では、日本語を学ぶために来日した外国人が多く、1つのクラスで様々な国籍の学生を教える。海外はアジア圏に多く、就職するにはビザが必要。
- ② 大学…国内では、主に大学付属の日本語学校で大学進学を目的とした留学生に教える。海外では、必修外国語として、院生には専門研究の為に教える。国内外共に修士以上の学歴が必要。
- ③ 小学校・中学校・高校…外国籍の子どもや帰国子女などに教える。海外では一般的にその国の教員資格が必要。オーストラリアや韓国などでの募集が多い。
- ④ ボランティア…民間のボランティア団体などで教える。海外では、公的機関やNPOなどが日本語教師を派遣する場合がある。

その他に、海外の現地教師のティーチングアシスタントとして、日本語や文化を教える日本語教師アシスタントもある。その場合、参加費用を払うケースが多く見られる。

5. 各メジャーの履修モデル

【英語文化メジャー】

① 履修のしかた

英語文化メジャーは、英語運用能力を向上させながら、英語学、英語教育、日英比較文化、通訳・翻訳、英米文学の分野・領域のスキルや知識を身につけるための科目を提供しています。これらの分野・領域は、互いに関係していますので、バランスよく履修することが望ましいです。その上で、興味や目的別に、以下の(1)～(4)の4つについて、文学部のイントロダクトリー科目（入門科目）「ベーシック科目」（基礎科目）「アドヴァンスト科目」（応用科目）の3つのカテゴリーに従い、履修推奨科目を紹介します。各自の関心に応じて、履修してください。

- (1) 英語運用能力の向上、通訳・翻訳の分野に関心のある方への推奨科目
- (2) 英語学、英語教育の分野に関心のある方への推奨科目
- (3) 日英比較文化、異文化理解の分野に関心のある方への推奨科目
- (4) 英米文学の分野に関心のある方への推奨科目

イントロダクトリー科目

・英語文化メジャーすべての方に履修を勧める科目：「英語文化への招待」「言語文化入門」

ベーシック科目

- (1)に関心のある方：「English for Humanities AI」「English for Humanities AII」「English for Humanities BI」「English for Humanities BII」「Oral Communication in English I」「Oral Communication in English II」「英語で日本文化紹介 I」「英語で日本文化紹介 II」「英語通訳演習 A」「日英翻訳演習」「英語翻訳入門」「Academic Writing A」「Academic Writing B」「Cultural Representation I」「Cultural Representation II」「Literature I」「Literature II」
- (2)に関心のある方：「英語学概論 I」「英語学概論 II」「現代英文法」「英語音声学」「第二言語習得論入門」「英語科教育法 I」「英語科教育法 II」
- (3)に関心のある方：「日英語比較概説」、「比較文化 I」「比較文化 II」
- (4)に関心のある方：「Literature I」「Literature II」「英米文学概論 I」「英米文学概論 II」「英米文学講読 I」「英米文学講読 II」「イギリス古典文学史」「イギリス近代文学史」「アメリカ文学史」「演劇入門」

アドヴァンスト科目

(1)に関心のある方：「英語通訳演習 B」「英語翻訳論」「Text Studies」

(2)に関心のある方：「中・古期英語史と文化」「近代英語史と文化」「認知英語学」「第二言語習得論」「英語科教育法Ⅲ」「英語科教育法Ⅳ」

(3)に関心のある方：「日英語比較研究」

(4)に関心のある方：「英米児童文学研究」「演劇論」「Text Studies」

このほか、3年次の演習Ⅰ～Ⅱと4年次の演習Ⅲ～Ⅳ、卒業研究Ⅰ～Ⅱは必修ですので、すべての方が履修登録してください。卒業論文作成に挑戦したい方は、指導教員と相談し、許可を得たうえで、選択科目の「卒業研究Ⅲ（論文作成）」を履修してください。

② 他メジャーとの関係

英語という言語と私たちが生きる社会は、密接な関係にあります。英語文化メジャーの学びと、英語以外の言語、英米文学、英語文化の背景にあるヨーロッパ・アメリカの歴史や哲学をあつかう他のメジャーの学びを組み合わせることにより、より豊かで深い学びができます。

③ 留学・教職その他

留学：英語力の向上のみならず、異文化交流を行い、異文化理解を深めるために、学生の短期語学研修への参加や長期留学を奨励、サポートします。

教職：語学力、英語学および英語教育の専門知識、異文化理解力を総合的に身につけた中学校・高等学校英語教員の養成に力を入れます。中学校・高等学校の英語教員を目指す方は、中学校・高等学校教員免許1種(英語)を取得するために、「教職課程ガイド」を必ず参照して、必要な科目を履修してください。

④ 学生へのメッセージ

英語文化メジャーは、①「英語によるコミュニケーション能力を高めたい」、②「言語としての英語そのものを学びたい」、③「英語教育にたずさわりたい」、④「英語を通じて英語圏（英米だけでなく、非欧米も含めて）の文化を学びたい」という学生さんのためのメジャーです。英語のコミュニケーション能力、英語の専門力、そして人間力を身につけたグローバル社会の一員として活躍できるよう、一緒に学んでいきましょう！

【国際日本学メジャー】

① 履修のしかた

国際日本学メジャーは、大きく4つの領域—(1)人文系／(2)社会・文化系／(3)言語系／(4)文学系の科目群から構成されています。文学部のすべての科目は、イントロダクトリー科目（入門科目）「ベーシック科目」（基礎科目）「アドヴァンスト科目」（応用科目）の3つのカテゴリーに分かれています。国際日本学メジャーの科目もこのカテゴリーに分けて配置されています。

はじめに、**イントロダクトリー科目**で履修が望まれる科目をご紹介します。まず、国際日本学メジャーに関心のあるすべての方に、「**国際日本学の招待**」の履修を勧めます。①③④の領域に関心のある方は、「**言語文化入門**」を、②の領域に関心のある方は、「**社会・文化研究への招待**」も履修してください。

次に**ベーシック科目**で履修が望まれる科目をご紹介します。すべての方に履修を勧める科目として、「**国際交流と日本社会**」があります。

(1) **人文系**の領域に関心のある方は、「歴史学概論」「考古学概論」「仏教思想概論」「比較文化史特講」「西洋哲学史Ⅰ」「哲学概論」「倫理学概論」「歴史と人間」「歴史と地域社会」「日本古代・中世史概説」「日本近世・近現代史概説」「日本思想史Ⅰ」「東洋史概説」などから、各自の関心領域に応じて履修してください。

(2) **社会・文化系**の領域に関心のある方は、「比較文化Ⅰ」「比較文化Ⅱ」「比較文化史概論」「Comparative Culture: Anthropology」「文化人類学」「社会学概論」「国際関係論」「マンガの社会学」などから、各自の関心領域に応じて履修してください。

(3) **言語系**の領域に関心のある方は、「言語コミュニケーション論」「社会で通用する日本語」「日本語学概論Ⅰ」「日本語学概論Ⅱ」「日英語比較概説」「日英翻訳演習」「言語学概論Ⅰ」「言語学概論Ⅱ」「対照言語学Ⅰ」「対照言語学Ⅱ」「日本語音声学」「書道Ⅰ」「書道Ⅱ」などから、各自の関心領域に応じて履修してください。

(4) **文学系**の領域に関心のある方は、「日本古典文学概論」「日本近代文学概論」「日本古典文学講読」「日本近代文学講読」「日本文学史」「書道Ⅰ」「書道Ⅱ」などから、各自の関心領域に応じて履修してください。

最後に**アドヴァンスト科目**で履修が望まれる科目をご紹介します。

(1) **人文系**の領域に関心のある方は、「東洋思想史」「日本思想史Ⅱ」「民俗学」「キリスト教文化史」「東洋文化史」「古文書学」「パブリック・ヒストリー」「日本政治外交史」「日本政治思想史」「地域

コミュニティ論」「教育史 A」「法史学（日本法史）」「日本経済史」などから各自の関心領域に応じて履修してください。

(2) 社会・文化系の領域に関心のある方は、Special Lecture A Special Lecture B「歴史の社会学」「マンガ・児童文化探究」「ディベート日本学」「サブカルチャー論」「国際社会論」「日本政治外交史」「日本政治思想史」「地域コミュニティ論」「教育史 A」「法史学（日本法史）」「日本経済史」などから、各自の関心領域に応じて履修してください。

(3) 言語系の領域に関心のある方は、「社会言語学」「現代日本語文法 A」「現代日本語文法 B」「日本語の表現」「日英語比較研究」「日本語の語彙・表記」「日本語学特講 A」「日本語学特講 B」「ディベート日本学」などから、各自の関心領域に応じて履修してください。

(4) 文学系の領域に関心のある方は、「日本古典文学作家作品論 A」「日本古典文学作家作品論 B」「日本近代文学作家作品論 A」「日本近代文学作家作品論 B」「日本文学特講 A」「日本文学特講 B」「日本文学特講 C」「漢文学特講 I」「漢文学特講 II」などから、各自の関心領域に応じて履修してください。

このほか、3年次の演習Ⅰ～Ⅱと4年次の演習Ⅲ～Ⅳ、卒業研究Ⅰ～Ⅱは必修ですので、すべての方が履修登録してください。卒業論文作成に挑戦したい方は、指導教員と相談し、許可を得たうえで、選択科目の「卒業研究Ⅲ（論文作成）」を履修してください。

② 他メジャーとの関係

国際日本学メジャーはほかの多くのメジャーと相性の良い学際的なメジャーです。国際日本学メジャーをメジャーとする場合、日本の歴史・社会・文化・言語・文学をあつかうメジャーを、メジャーまたはマイナーにすることで、より深い学びが可能となります。

③ 留学・教職その他

日本を世界に発信する人材の輩出を大きな目的とする国際日本学メジャーでは、短期・長期を問わず、留学や海外研修を勧めています。

教職については、国際日本学メジャーでは、中学Ⅰ種の国語、社会、高校Ⅰ種の地歴・歴史、公民、国語の免許取得に必要な科目を提供しています。

④ 学生へのメッセージ

国際日本学メジャーは、私たちがくらす「日本」というコンテンツを世界に発信できる人材を育成します。私たちは「日本」について、どのくらい知っているのでしょうか。あらためて「日本」についていろいろ質問されると、うまく答えられなかった経験はありませんか。国際日本学メジャーで、

すぐそばにある日本を、歴史、思想、社会、文化、言語、文学の領域から深く学び、その魅力を再発見し、世界の人々に伝えてみましょう。

【中国・アジア文化メジャー】

① 履修のしかた

中国・アジア文化メジャーでは、中国語および中国・アジアの地域文化（社会・文化・歴史など）について学ぶことができます。本メジャーの中国語プログラムでは、中国語を基礎から上級レベルまで学ぶことができます。また北京語言大学とのダブル・ディグリー制度を利用し、創価大学で2年間、北京語言大学で2年間学ぶことで、両大学の学士号を同時に取得することが可能です。さらに中国・アジアの地域文化に関する科目も充実しており、これを中心に学んでいくこともできます。自らの関心や目標に合わせて、適切な科目を履修するよう心掛けてください。

まず、本メジャーのイントロダクトリー科目として履修を推奨するのが、春学期に開講される「中国・アジア文化入門」です。この科目は、中国・東アジアの言語・歴史・社会・宗教・法律・国際関係などを学んでいくもので、本メジャーでどのようなことが学べるのかを知るうえで最適な授業です。また秋学期に開講される「多文化共生と平和創造」と「言語文化入門」の履修も推奨いたします。

ベーシック科目以降は、どのようなことを中心に学んでいくかにより、履修モデルが異なってきます。

(1) 中国語を中心に学びたい（中国語プログラム）。

◇ベーシック科目

1年次から積極的に「中国語プログラム」の科目を履修することを推奨します。中国語を専門的に学びたい人は、1年次から「中国語学入門Ⅰ」「中国語学入門Ⅱ」（主に文法）、「中国語コミュニケーション演習初級Ⅰ」「中国語コミュニケーション演習初級Ⅱ」（会話）、「中国語講読初級Ⅰ」「中国語講読初級Ⅱ」（読解）、「中国語学概論Ⅰ」「中国語学概論Ⅱ」（言語論）のなかから、できるだけ多くの科目を履修するようにしてください。（太字は中国語DDの必須科目です）

2年次には、「中国語文法初中級Ⅰ」「中国語文法初中級Ⅱ」（文法）、「中国語講読初中級Ⅰ」「中国語講読初中級Ⅱ」（読解）、「中国語コミュニケーション演習初中級Ⅰ」「中国語コミュニケーション演習初中級Ⅱ」（会話）、「中国語作文初中級Ⅰ」「中国語作文初中級Ⅱ」、「中国語総合初中級Ⅰ」「中国語総合初中級Ⅱ」（作文中心）のなかから、できるだけ多くの科目を履修するようにしてください。

◇アドヴァンスト科目

3・4年次には、「中国語学中上級A」「中国語学中上級B」、「中国語コミュニケーション演習中上級A」「中国語コミュニケーション演習中上級B」（会話）、「中国語文法研究A」「中国語文法研究B」（文法）、「中国語作文中上級A」「中国語作文中上級B」、「通訳演習（日中）A」「通訳演習（日中）B」、「通訳演習（中日）A」「通訳演習（中日）B」、「翻訳演習（日中）A」「翻訳演習（日中）B」、「翻訳演習（中日）A」「翻訳演習（中日）B」のなかから、自身の中国語レベルや関心に合わせて科目を履修してください。

(2) 中国・アジア地域文化（社会・文化・歴史など）について幅広く学びたい

本メジャーでは、中国を中心とするアジアの地域文化（社会・文化・歴史など）を、国際的な視野も取り入れながら幅広く学んでいくことができます。一つ一つの授業の内容は異なりますが、それらとともに学んでいくと、部分的に重なり合っている箇所やそれぞれの関連性に気づいていきます。そうすると、本メジャーでの学びがさらに面白く充実したものになっていくはずですよ。

◇ベーシック科目

中国の社会・文化・歴史への理解を深めたい人は、「中国社会文化概論」「映像から考える中国」、「中国文学」「中国近現代の歴史と思想」を履修してみてください。また、少し広い視野から東アジア・中国を考えてみたい人は、「東アジア現代事情」「東アジアの文化交流」「人類学的地域研究（アジア）」「東洋史概説」の履修を推奨します。このほか、国際社会や多文化社会への理解を深めるための「国際関係論」「国際交流と日本社会」「文化人類学」「社会学概論」、中国・アジア地域文化に関する内容が授業のなかに含まれている「考古学概論」、「書道Ⅰ」、「書道Ⅱ」、「歴史と人間」、「仏教思想概論」も本メジャーの科目ですので、自身の興味に合わせて履修してみてください。

◇アドヴァンスト科目

アドヴァンスト科目には、より広い視野から、あるいは専門的見地から中国・アジアを考える科目が置かれています。主に中国・東アジアに関して学びたい人は、「現代中国論」、「中国社会問題特講」、「東アジア文化論」、「東アジア共同体と安全保障論」、「漢文学特講Ⅰ」、「漢文学特講Ⅱ」のなかから関心のある科目を履修してください。また「東洋思想史」、「イスラーム文化論」、「中央ユーラシアの歴史と文化」では南アジア、西アジア、中央ユーラシアの地域文化を学ぶことができるので、関心のある科目を履修してみてください。このほか、中国・アジアを含めた国際社会への理解を深めるための「国際社会論」、「多文化共生と平和創造のためのワークショップⅡ」も本メジャーの科目として位置付けていますので、関心のある科目を履修してみてください。

(3) 中国語と中国・アジア地域文化をともに学びたい

本メジャーでは、中国語と中国・アジア地域文化をともに学んでいくこともできます。中国語を中心としながら合わせて地域文化を学んでいくのでもいいですし、地域文化を中心としながら中国語も少しずつ学んでいくというのも一つの方法です。地域文化を中心に学んでいく場合には、1年次に共通科目の第2外国語で中国語を学んだのち、2年次からレベルに応じて中国語の「初級」・「初中級」の科目を履修していくのがいいでしょう。中国語圏に留学し、そこで中国語を学んだ場合には、本メジャーの「入門」、「初級」、「初中級」の科目を修得していなくてもアドヴァンストの中国語科目を履修することが十分に可能です。

このほか、3年次の演習Ⅰ～Ⅱと4年次の演習Ⅲ～Ⅳ、卒業研究Ⅰ～Ⅱは必修ですので、すべての方が履修登録してください。卒業論文作成に挑戦したい方は、指導教員と相談し、許可を得たうえで、選択科目の「卒業研究Ⅲ（論文作成）」を履修してください。

② ダブルメジャー・マイナー（副専攻）、留学制度の利用

本メジャーでは、ダブルメジャー制度、マイナー（副専攻）制度の利用を大いに推奨します。中国語と英語をともに高いレベルまで伸ばしたい場合には、本メジャーと英語文化メジャーの科目をともに学ぶことで、ダブルメジャーの認定を受けることが可能になります。中国語を中心としながら英語もある程度まで学びたいという人は、英語文化メジャーをマイナー（副専攻）登録することで、その認定を受けることが可能になります。中国語とロシア語をともに学びたいという人も、これと同じような学び方ができます。このほか、言語文化メジャーや国際日本学メジャーを第2メジャー（マイナー）とすれば、日本語教師の資格取得も目指せます。また、本メジャーを第2メジャー、あるいはマイナーとして学ぶことも大いに意義のあることです。歴史、哲学、社会学、表現文化などを第1メジャーとしながら、同時に中国語習得のための科目を履修していけば、本メジャーを第2メジャー／マイナーとして登録することでその認定を受けることが可能になります。

留学に関しては、まずは文学部独自の北京語言大学ダブル・ディグリーコースへのチャレンジを考えてみてください。また創価大学との学術交流協定を結んでいる中国語圏の大学は数多くありますので、ぜひ本メジャーで培う中国語力を生かして交換留学にチャレンジしてみてください。留学は、語学力アップや地域文化への理解を深めるうえでとても貴重な機会ですので、その実現に向けてしっかりとサポートしていきます。

③ 学生へのメッセージ

海を隔てて日本に隣接する中国、そして日本・中国を含むアジア地域は、文化的、また政治・経済的にも密接に結びつき、互いに交流を重ねてきました。その一方で、日中関係や日韓関係、台湾問題など、いまだ多くの課題が山積している地域でもあります。これらの課題を解決へと近づけていくためには、相互コミュニケーションや文化交流を重ね、相手の社会や文化への理解と共感を深め、尊重しあっていくことが必要です。本メジャーでの学びを通じて、日本と中国・アジア地域との文化交流やビジネスシーンで活躍するための実力を身につけていってほしいです。

【ロシア・ヨーロッパ文化メジャー】

① 履修のしかた

ロシア・ヨーロッパ文化メジャーでは、大きく 3 つの方向性—(1)ロシア語の習得、ロシアおよびロシア語圏の国への留学を目指す／(2)ロシア語の基礎、ロシアとヨーロッパとの繋がりなど幅広い学習を目指す／(3)ヨーロッパの言語や文化を学び、ヨーロッパ諸国への留学を目指す—で履修することを推奨します。

文学部のすべての科目は、「イントロダクトリー科目」(入門科目)、「ベーシック科目」(基礎科目)、「アドヴァンスト科目」(応用科目)の 3 つのカテゴリーに分かれています。ロシア・ヨーロッパ文化メジャーの科目もこのカテゴリーに分けて配置されています。

はじめに、**イントロダクトリー科目**で履修が望まれる科目をご紹介します。まず、ロシア・ヨーロッパ文化メジャーに関心のあるすべての方は、「**ロシア・ヨーロッパ文化入門**」を履修するようにしてください。さらに、言語そのものに関心のある方は「**言語文化入門**」を、社会の在り方などに関心のある方は「**多文化共生と平和創造**」も履修してください。

次に**ベーシック科目**で履修が望まれる科目をご紹介します。

(1) **ロシア語の習得、ロシアおよびロシア語圏の国への留学を目指す**方は、「ロシア語コミュニケーション初級Ⅰ」「ロシア語コミュニケーション初級Ⅱ」「ロシア語文法初級Ⅰ」「ロシア語文法初級Ⅱ」「ロシア語リーディング入門Ⅰ」「ロシア語リーディング入門Ⅱ」「ロシア語ライティング入門Ⅰ」「ロシア語ライティング入門Ⅱ」「ロシア語コミュニケーション中級Ⅰ」「ロシア語コミュニケーション中級Ⅱ」「ロシア語文法中級Ⅰ」「ロシア語文法中級Ⅱ」「言語コミュニケーション論」「ロシア文学入門」「神話とフォークロア」「ロシアの歴史と文化」「現代ロシア概論」などを、できるだけ多く履修してください。

(2) **ロシア語の基礎、ロシアとヨーロッパとの繋がりなど幅広い学習を目指す**方は、「ロシア語コミュニケーション初級Ⅰ」「ロシア語コミュニケーション初級Ⅱ」「ロシア語文法初級Ⅰ」「ロシア語文法初級Ⅱ」「ロシア語リーディング入門Ⅰ」「ロシア語リーディング入門Ⅱ」「ロシア語ライティング入門Ⅰ」「ロシア語ライティング入門Ⅱ」「言語コミュニケーション論」「ロシア文学入門」「神話とフォークロア」「ロシアの歴史と文化」「現代ロシア概論」「ヨーロッパ文学」「西洋史概説」「歴史学

概論」「哲学概論」「倫理学概論」「文化記号論」「Principles of Politics and Globalization」「Principles of International Relations」「Comparative Culture: Anthropology」「Cultural Representation I」「Introduction to Peace Studies I」などから、各自の関心領域に応じて履修してください。

(3) ヨーロッパの言語や文化を学び、ヨーロッパ諸国への留学を目指す方は、まず共通科目の第二外国語で「ドイツ語 I～IV」や「フランス語 I～IV」などの言語科目を履修してください。さらに「西洋史概説」「歴史学概論」「歴史と地域社会」「哲学概論」「西洋哲学史 I」「倫理学概論」「文化記号論」「多文化共生論」「国際交流と日本社会」「国際関係論」「Principles of Politics and Globalization」「Principles of International Relations」「Comparative Culture: Anthropology」「Cultural Representation I」「Cultural Representation II」「Introduction to Peace Studies I」「Introduction to Peace Studies II」などから、各自の関心領域に応じて履修してください。

最後にアドヴァンスト科目で履修が望まれる科目をご紹介します。

(1) ロシア語の習得、ロシアおよびロシア語圏の国への留学を目指す方は、「ロシア語コミュニケーション上級 A」「ロシア語コミュニケーション上級 B」「ロシア語文法上級 A」「ロシア語文法上級 B」「ロシア語ライティング上級 A」「ロシア語ライティング上級 B」「メディアのロシア語」「ロシア語学 A」「ロシア語学 B」「人間学外書講読 I (ロシア語)」「人間学外書講読 II (ロシア語)」「ロシア文学」「ロシアのフォークロア」「ロシアの社会」「東欧の歴史と文化」「第二言語習得論」などから、語学科目を中心に履修してください。

(2)・(3)の領域に関心のある方がロシアを深く知るためにはベーシックなロシア語の修得も望ましいですが、その上で、

(2) ロシア語の基礎、ロシアとヨーロッパとの繋がりなど幅広い学習を目指す方は、「メディアのロシア語」「ロシア語学 A」「ロシア語学 B」「人間学外書講読 I (ロシア語、ドイツ語、フランス語、西洋古典語)」「人間学外書講読 II (ロシア語、ドイツ語、フランス語、西洋古典語)」「ロシア文学」「ロシアのフォークロア」「ロシアの社会」「東欧の歴史と文化」「第二言語習得論」「美学美術史」「キリスト教文化史」「Global Ethics」「演劇論」「イスラーム文化論」「中央ユーラシアの歴史と文化」「多言語社会と言語政策」「平和学」「国際社会論」「Peace Studies Workshop」などから、各自の関心領域に応じて履修してください。

(3) ヨーロッパの言語や文化を学び、ヨーロッパ諸国への留学を目指す方は、共通科目の第二外国語中級レベルの「ドイツ語Ⅴ」「ドイツ語Ⅵ」や「フランス語Ⅴ」「フランス語Ⅵ」などの言語科目を履修してください。さらに「人間学外書講読Ⅰ（ドイツ語、フランス語、西洋古典語）」「人間学外書講読Ⅱ（ドイツ語、フランス語、西洋古典語）」「東欧の歴史と文化」「第二言語習得論」「西洋哲学史Ⅱ」「美学美術史」「キリスト教文化史」「Global Ethics」「演劇論」「イスラーム文化論」「中央ユーラシアの歴史と文化」「多言語社会と言語政策」「平和学」「国際社会論」「Peace Studies Workshop」「認知英語学」「日英語比較研究」などから、各自の関心領域に応じて履修してください。

このほか、3年次の演習Ⅰ～Ⅱと4年次の演習Ⅲ～Ⅳ、卒業研究Ⅰ～Ⅱは必修ですので、すべての方が履修登録してください。卒業論文作成に挑戦したい方は、指導教員と相談し、許可を得たうえで、選択科目の「卒業研究Ⅲ（論文作成）」を履修してください。

② 他メジャーとの関係

ロシア・ヨーロッパ文化メジャーはほかの多くのメジャーと相性の良い学際的なメジャーです。ロシア・ヨーロッパ文化メジャーをメジャーとする場合、言語文化、表現文化、歴史・社会文化メジャーなどをマイナーにすることで、比較文化という視点でより深い学びが可能となります。

③ 留学のすすめ

ロシア語能力を修得するとともに、ロシアおよびヨーロッパの文化や社会に関する深い見識を有した人材の輩出を大きな目的とするロシア・ヨーロッパ文化メジャーでは、短期・長期を問わず、留学や海外研修を勧めています。

④ 学生へのメッセージ

ロシア・ヨーロッパ文化メジャーでは、ダイナミックに変動し続けるロシアの歴史、社会や文化、ロシア語（公用語話者数世界第5位）、ロシアとヨーロッパとの繋がりなど、幅広く学びます。本学はロシア・旧ソ連邦諸国・ヨーロッパ諸国の大学と協定を結んでおり、ロシア語圏やヨーロッパ諸国への留学も可能です。ネイティブ・スピーカーや同時通訳者による卓越したロシア語教育プログラムを設置し、きめ細かい指導によって体系的にロシア語能力を養います。ロシア語能力のみならず、ロシア・ヨーロッパの文化や社会に関する深い見識を身につけていきましょう！

【哲学・思想文化メジャー】

① 履修のしかた

哲学・思想文化メジャーは、大きく3つの領域—(1)哲学系／(2)宗教学系／(3)社会・文化系の科目群から構成されています。文学部のすべての科目は、イントロダクトリー科目（入門科目）「ベーシック科目」（基礎科目）「アドヴァンスト科目」（応用科目）の3つのカテゴリーに分かれています。哲学・思想文化メジャーの科目もこのカテゴリーに分けて配置されています。

はじめに、**イントロダクトリー科目**で履修が望まれる科目をご紹介します。まず、哲学・思想文化メジャーに関心のあるすべての方に、「**哲学・宗教学への招待**」の履修を勧めます。（※英語だけで学びたい方は「**Introduction to Soka Akademia**」を履修してください。）

次に**ベーシック科目**で履修が望まれる科目をご紹介します。すべての方に履修を勧める科目として、「哲学概論」「仏教思想概論」「宗教社会学」があります。

(1)哲学系の領域に関心のある方は、「哲学概論」「倫理学概論」「西洋哲学史Ⅰ」「心の哲学」「認知心理学」「言語学概論Ⅰ」「言語学概論Ⅱ」「法学部生のための論理学」などから、各自の関心領域に応じて履修してください。

(2)宗教学系の領域に関心のある方は、「仏教思想概論」「日本思想史Ⅰ」「宗教社会学」「文化人類学」「神話とフォークロア」「文化記号論」などから、各自の関心領域に応じて履修してください。

(3)社会・文化系の領域に関心のある方は、「社会理論と社会システム」「比較文化Ⅰ」「比較文化Ⅱ」「比較文化史概論」「心理学理論と心理的支援」「法律学概論」「政治学概論」「学部インターンシップ」などから、各自の関心領域に応じて履修してください。

【ベーシック科目全体に関わる注意】

※(1)と(2)、(1)と(3)、(2)と(3)のように複数の領域を組み合わせることで、より深い学びが可能となります。

※「法学部生のための論理学」は論理学初級に当たります。論理学中級はアドヴァンスト科目の「論理学」になります。論理学を体系的に学びたい方は、まずベーシック科目で「法学部生のための論理学」を履修してください。

※英語だけで学びたい方は「Philosophy I: Metaphysics, Epistemology and Ethics (EMP)」「Philosophy II: Contemporary Philosophy and Buddhism)」「Comparative Culture: Anthropology」「Principles of Philosophy)」などを履修してください。

最後にアドヴァンスト科目で履修が望まれる科目をご紹介します。

(1)哲学系の領域に関心のある方は、「西洋哲学史Ⅱ」「論理学」「言語哲学」「科学哲学」「哲学・思想特講 A」「美学美術史」「法哲学」「教育哲学」「日本政治思想史」などから各自の関心領域に応じて履修してください。

また、「人間学外書講読Ⅰ（英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、西洋古典語、サンスクリット語)」「人間学外書講読Ⅱ（英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、西洋古典語、サンスクリット語)」「漢文学特講Ⅰ」「漢文学特講Ⅱ」などから専門の学習にとって必要なものを履修してください。

(2)宗教学系の領域に関心のある方は、「東洋思想史」「日本思想史Ⅱ」「宗教学」「現代宗教の社会学」「哲学・思想特講 B」「キリスト教文化史」「東アジア文化論」「イスラーム文化論」「ポスト・コロニアル人類学」などから、各自の関心領域に応じて履修してください。

また、「人間学外書講読Ⅰ（英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、西洋古典語、サンスクリット語)」「人間学外書講読Ⅱ（英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、西洋古典語、サンスクリット語)」「漢文学特講Ⅰ」「漢文学特講Ⅱ」などから専門の学習にとって必要なものを履修してください。

(3)社会・文化系の領域に関心のある方は、「メディア論」「サブカルチャー論」「科学・技術の人類学」「政治学史」「平和学」「人間の安全保障」「多文化共生と平和のためのワークショップⅠ」「民俗学」「Translation Studies」「教育史 A」「教育史 B」などから、各自の関心領域に応じて履修してください。

また、「人間学外書講読Ⅰ（英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、西洋古典語、サンスクリット語)」「人間学外書講読Ⅱ（英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、西洋古典語、サンスクリット語)」「漢文学特講Ⅰ」「漢文学特講Ⅱ」などから専門の学習にとって必要なものを履修してください。

【アドヴァンスト科目全体に関わる注意】

※(1)と(2)、(1)と(3)、(2)と(3)のように複数の領域を組み合わせることで、より深い学びが可能となります。

※「人間学外書講読Ⅰ」「人間学外書講読Ⅱ」では、哲学・宗教に関するテキストを原文で読解したり、世界の情報にアクセスしたりするために必要な語学スキルを磨きます。まず1年次に共通科目の「ドイツ語」「フランス語」「ロシア語」などを履修した上で、2年次からこれらの外書講読系の授業を履修することをお勧めします。

※英語だけで学びたい方は「Metaethics (EMP)」「Principles of Philosophy」「Global Ethics」などを履修してください。

このほか、3年次の演習Ⅰ～Ⅱと4年次の演習Ⅲ～Ⅳ、卒業研究Ⅰ～Ⅱは必修ですので、すべての方が履修登録してください。卒業論文作成に挑戦したい方は、指導教員と相談し、許可を得たうえで、選択科目の「卒業研究Ⅲ（論文作成）」を履修してください。

② 他メジャーとの関係

哲学・思想文化メジャーはほかの多くのメジャーと相性の良いメジャーです。哲学・思想文化メジャーをメジャーとする場合、国際日本学、表現文化、歴史・社会文化、社会学・人類学、多文化共生・平和創造メジャーを、メジャーまたはマイナーにすることで、より深い学びが可能となります。ロシア・ヨーロッパ文化、中国・アジア文化などの言語文化系とかけ合わせるのも勉強になるでしょう。

③ 留学・教職その他

世界と日本のさまざまな哲学・宗教に関する見識を持ち、それらが現代社会で担うべき役割を構想できる人材の輩出を大きな目的とする哲学・思想文化メジャーでは、短期・長期を問わず、留学や海外研修を勧めています。

教職については、哲学・思想文化メジャーでは、中学Ⅰ種の社会、高校Ⅰ種の地歴・歴史、公民の免許取得に必要な科目を提供しています。

④ 学生へのメッセージ

哲学・思想文化メジャーは、混迷の時代を生き抜くために、表面にとらわれず、本質を見極める力を備えた人材を育成します。西洋哲学、仏教思想、キリスト教、イスラームなど世界のさまざまな哲学・宗教の歴史から、倫理・科学・社会・心理・アートといった現代的トピックに至るまでの幅広い

分野を学びます。すべて英語で学び議論する授業や、古代ギリシア語、ラテン語、サンスクリット語、ドイツ語、フランス語、中国語等の原典をじっくり読み解く授業もあります。古今の知の巨人たちを友としながら、多角的な視点や、論理的な思考、そして自由でユニークな発想に触れ、ものごとの本質を見極める力を養ってみませんか。

なお、哲学・思想文化メジャーでは教員や学生による勉強会や研究会が盛んに行われています。主に X の「八王子哲学研究会」や情報共有用のメーリングリストで情報発信を行っていますので、フォロー、登録をお願いいたします（メーリングリストへの登録は蝶名林【cryo@soka.ac.jp】まで）。

【歴史・社会文化メジャー】

① 履修のしかた

歴史・社会文化メジャーは、歴史学の知識を基礎としながら、社会学分野の理論や哲学・文学・言語・政治・経済・教育分野における歴史的視点を合わせて学ぶことで、より幅広く、また現代の社会・文化の状況と関連づけながら「歴史」を学んでいくメジャーです。

まず**イントロダクトリー科目**として履修を推奨するのが、春学期に開講される「**歴史と社会**」です。この科目は、歴史学・社会学・文化論の視点から「歴史」について学び、考えていくものになっています。また秋学期には「**多文化共生と平和創造**」が開講されます。これもぜひ履修を推奨したい科目です。この2科目を履修し、歴史的な視点が現代社会の諸問題に対してどのように役に立ちそうかを考えてみてほしいです。

次に、**ベーシック科目**のなかでまず履修してほしいのが「比較文化史概論」・「歴史学概論」・「日本古代・中世史概説」・「日本近世・近代史概説」・「東洋史概説」・「西洋史概説」の6科目です。これらは歴史学の視点や理論、また日本史・外国史の基礎を学ぶ科目です。また、これと合わせて社会学理論の基礎科目である「社会学概論」・「文化人類学」を学ぶと、歴史を捉える視点が磨かれていきます。このほかにも、本メジャーのベーシック科目には①歴史学系、②文学系、③哲学・文化系のなかの歴史に関する科目が設置されています。

(1) **歴史学系**：「考古学概論」「歴史と人間」「歴史と地域社会」「中国近現代の歴史と思想」

(2) **文学・哲学系**：「西洋哲学史」「日本思想史Ⅰ」「神話とフォークロア」「アメリカ文学史」「イギリス古典文学史」「イギリス近代文学史」「日本文学史」「中国文学」

(3) **社会・文化系**：「東アジアの文化交流」「ロシアの歴史と文化」「多文化共生論」「社会調査の基礎」「現代文化人類学」「地理学Ⅰ」「地理学Ⅱ」

これらの科目から、自身の興味のある科目を履修するようにしてください。

アドヴァンスト科目については、まず3年次の演習Ⅰ～Ⅱと4年次の演習Ⅲ～Ⅳ、卒業研究Ⅰ～Ⅱは必修ですので、すべての方が履修登録してください。卒業論文作成に挑戦したい方は、指導教員と相談し、許可を得たうえで、選択科目の「卒業研究Ⅲ（論文作成）」を履修してください。

そのほかの科目については、自分なりの枠組みを設定して履修することをおすすめします。以下はその例ですが、これ以外にもさまざまな履修のしかたがあるはずです。

(1) 日本の歴史を中心に学びたい

「古文書学」「民俗学」「日本思想史Ⅱ」「パブリック・ヒストリー」「歴史の社会学」「サブカルチャー論」「メディア論」「マンガ・児童文化探究」「現代宗教の社会学」

(2) 欧米の歴史を中心に学びたい

「キリスト教文化史」「東欧の歴史と文化」美学美術史・「イスラーム文化論」「西洋哲学史Ⅱ」
「中・古期英語史と文化」「近代英語史と文化」「ロシアのフォークロア」

(3) アジアの歴史を中心に学びたい

「東洋思想史」・「東アジア文化論」・「漢文学特講Ⅰ」・「漢文学特講Ⅱ」・「中央ユーラシアの歴史と文化」・「イスラーム文化論」

(4) 近代以前の歴史を中心に学びたい

「古文書学」・「キリスト教文化史」・「漢文学特講Ⅰ」・「漢文学特講Ⅱ」・「中・古期英語史と文化」・「東洋史思想」

(5) 近代以降の歴史を中心に学びたい

「日本思想史Ⅱ」・「歴史の社会学」・「サブカルチャー論」・「メディア論」・「マンガ・児童文化探究」・「現代宗教の社会学」・「近代英語史と文化」・「東アジア文化論」・「中央ユーラシアの歴史と文化」

このほか、他学部との連携科目として、次の歴史系科目も本メジャーのアドヴァンスト科目となっています。これらの科目を修得することで、「歴史」の幅広さや奥深さを知ることができるはずです。

法学部：「政治学史」「国際関係史」「法史学入門（西洋法史）」「日本政治外交史」「日本政治思想史」

教育学部：「教育史A」「教育史B」

経済学部：「日本経済史」「西洋経済史」「現代経済史」

② ダブルメジャー／マイナー、留学・教職

歴史（とくに外国の歴史）を学ぶうえでは、英語をはじめとする外国語の能力がとても重要です。

外国語能力の向上を目指し、英語文化メジャーや中国・アジア文化メジャー、ロシア・ヨーロッパ文化メジャーを第2メジャー／マイナー（副専攻）として学んでいくことも可能です。また、海外留学も推奨いたします。外国での生活の経験は、歴史を学ぶうえで多くのヒントを与えてくれるはずです。

教職科目としては、中学社会Ⅰ種、高校地歴公民Ⅰ種のための科目が多く揃っています。社会科学の教員を目指す学生にはおすすめのメジャーです。

③ 学生へのメッセージ

私たちはいま、どのような時代を生きているのでしょうか。そして私たちには、どのような未来が待ちうけているのでしょうか。予測のできない現代社会を、自分らしく、創造的に生き抜いていこうとするとき、時代をつらぬく歴史の叡智と、人類がこれまで築き上げてきたさまざまな社会や文化への深い理解こそが、私たちを助けてくれます。本メジャーでは、人間のあゆみの記録や痕跡を実証的に、時間軸に沿って読み解いていく歴史学の学修を中心に据えながら、今日の歴史研究に不可欠な社会学・人類学の視点や理論、また哲学・言語学・文学・メディア・サブカルチャー・政治・経済・教育の歴史をあわせて学んでいくことで、時代の波に左右されない確かな自分軸と、人間社会について総合的に理解するための豊かな知性と感性を身につけてほしいです！

【言語文化メジャー】

① 履修のしかた

言語文化メジャーは、大きく5つの領域—(1)メジャー共通科目（一般言語学系）／(2)日本語学系／(3)英語学系／(4)中国語学系／(5)ロシア語学系—の科目群から構成されています。文学部のすべての科目は、イントロダクトリー科目（入門科目）、「ベーシック科目」（基礎科目）、「アドヴァンスト科目」（応用科目）の3つのカテゴリーに分かれています。言語文化メジャーの科目もこのカテゴリーに分けて配置されています。

はじめに、**イントロダクトリー科目**で履修が望まれる科目をご紹介します。まず、広い意味で言語に関心のあるすべての方に、「言語文化入門」「英語文化への招待」の履修をお勧めします。特に③英語学系領域に関心のある方は、「英語文化への招待」を必ず履修してください。

次に**ベーシック科目**で履修が望まれる科目をご紹介します。言語文化メジャーのベーシック科目には、①メジャー共通科目の多くの科目と、②～⑤の各言語系の入門科目、概論科目が配置されています。言語を客観的に分析していく目を養うための一般言語学系であるメジャー共通科目（「言語学概論Ⅰ」「言語学概論Ⅱ」「音声学概論」など）を履修したうえで、特に自分が関心を持っている各言語系の入門科目（「日本語学概論Ⅰ」「日本語学概論Ⅱ」「英語学概論Ⅰ」「英語学概論Ⅱ」「中国語学入門Ⅰ」「中国語学入門Ⅱ」「ロシア語文法初級Ⅰ」「ロシア語文法初級Ⅱ」など）を履修するようにしてください。

(1) メジャー共通科目のうち、「言語学概論Ⅰ」「言語学概論Ⅱ」「音声学概論」はすべての言語学を学ぶ上で基礎となる科目ですので、言語文化メジャーの学生は1年次のうちに履修することをお勧めします。「第二言語習得論入門」「言語コミュニケーション論」「対照言語学Ⅰ」「対照言語学Ⅱ」「言語類型論」「文化記号論」「認知心理学」も各自の関心に応じて履修してください。

(2) 日本語学系領域に関心のある方は、「日本語学概論Ⅰ」「日本語学概論Ⅱ」「日本語音声学」を中心に、各自の関心に応じて「日本語教育概論Ⅰ」「日本語教育概論Ⅱ」「国語科教育法Ⅰ」「国語科教育法Ⅱ」を履修してください。日本語教師養成課程を履修する方は「日本語教育概論Ⅰ・Ⅱ」を、中高国語科教員養成課程を履修する方は「国語科教育法Ⅰ」「国語科教育法Ⅱ」を必ず履修してください。

(3)英語学系領域に関心のある方は、「英語学概論Ⅰ」「英語学概論Ⅱ」「英語音声学」を中心に、各自の関心に応じて「日英翻訳演習」「日英語比較概説」「英語翻訳入門」「English for Humanities AⅠ・Ⅱ」「現代英文法」「英語通訳演習A」「英語科教育法Ⅰ」「英語科教育法Ⅱ」を履修してください。中高英語科教員養成課程を履修する方は「英語科教育法Ⅰ」「英語科教育法Ⅱ」を必ず履修してください。

(4)中国語学系領域に関心のある方は、「中国語学入門Ⅰ」「中国語学入門Ⅱ」「中国語学概論Ⅰ」「中国語学概論Ⅱ」を中心に、各自の関心に応じて「中国語文法初中級Ⅰ」「中国語文法初中級Ⅱ」「中国語総合初中級Ⅰ」「中国語総合初中級Ⅱ」を履修してください。

(5)ロシア語学系領域に関心のある方は、各自の関心に応じて「ロシア語文法初級Ⅰ」「ロシア語文法初級Ⅱ」「ロシア語文法中級Ⅰ」「ロシア語文法中級Ⅱ」「ロシア語リーディング入門Ⅰ」「ロシア語リーディング入門Ⅱ」「ロシア語ライティング入門Ⅰ」「ロシア語ライティング入門Ⅱ」を履修してください。

最後に**アドヴァンスト科目**で履修が望まれる科目をご紹介します。

3年次の演習Ⅰ～Ⅱと4年次の演習Ⅲ～Ⅳ、卒業研究Ⅰ～Ⅱは必修です。言語文化メジャーの学生は、一般言語学系の卒業研究を希望する場合も含めて、②～⑤の個別言語系の演習を必ず履修登録してください。卒業論文作成に挑戦したい方は、指導教員と相談し、許可を得たうえで、選択科目の「卒業研究Ⅲ（論文作成）」を履修してください。

(1)一般言語学系領域に関心のある方は、メジャー共通科目「社会言語学」「第二言語習得論」から各自の関心領域に応じて履修してください。

(2)日本語学系領域に関心のある方は、「現代日本語文法A」「現代日本語文法B」「日本語教材研究Ⅰ」「日本語教材研究Ⅱ」「日本語教授法Ⅰ」「日本語教授法Ⅱ」「日本語の表現」「日本語の語彙・表記」「年少者日本語教育」「多言語社会と言語政策」「日本語教育実習」「日本語教授法演習」「日本語学特講A・B」「国語科教育法Ⅲ・Ⅳ」から、各自の関心領域に応じて履修してください。日本語教師養成課程、中高国語科教員養成課程を履修する方は各課程の科目表をよく確認のうえ、必要な科目を履修してください。

(3)英語学系領域に関心のある方は、「Special Lecture A」「Special Lecture B」「中・古期英語史と文化」「近代英語史と文化」「英語通訳演習 B」「英語翻訳論」「英語特講 A」「英語特講 B」「Translation Studies」「認知英語学」「日英語比較研究」「英語科教育法Ⅲ」「英語科教育法Ⅳ」から、各自の関心領域に応じて履修してください。中高英語科教員養成課程を履修する方は課程の科目表をよく確認のうえ、必要な科目を履修してください。

(4) 中国語学系領域に関心のある方は、「中国語文法研究 A」「中国語文法研究 B」「中国語学中上級 A」「中国語学中上級 B」から、各自の関心領域に応じて履修してください。

(5) ロシア語学系領域に関心のある方は、「ロシア語学 A」「ロシア語学 B」「ロシア語文法上級 A」「ロシア語文法上級 B」「ロシア語ライティング上級 A」「ロシア語ライティング上級 B」から、各自の関心領域に応じて履修してください。

② 他メジャーとの関係

言語文化メジャーの学びは他の地域メジャーの学びとクロスしています。言語文化メジャーをメジャーとする場合、主として学習する個別言語領域に従って、国際日本学、英語文化、中国・アジア文化、ロシア・ヨーロッパ文化の各メジャーを、ダブルメジャーまたはマイナーにすることで、より深い学びが可能となります。

さらに言語文化にとって隣接領域である表現文化をはじめ、言語の探究は哲学、歴史、社会学等の諸学問とも何らかの関連を持っていますので、自身の関心に従って他メジャーとのダブルメジャー、マイナーを考えることも可能です。

③ 留学・教職その他

言語文化メジャーでは、短期・長期を問わず、留学や海外研修を勧めています。言語を客観的に探究することを主眼とする言語文化メジャーではありますが、留学を通じて実際にその言語が日々使用されている現場に身を置き、自身もその言語の良き使い手となることはとても大切なことです。また、日本語教師養成課程を履修する学生は日本語教師インターン留学の機会を活かして海外での日本語教育の現場に触れることをお勧めします。

教職については、言語文化メジャーでは、中学・高校 I 種の国語・英語の免許取得に必要な科目を提供しています。

④ 学生へのメッセージ

言語は、コミュニケーションのツールであり、あらゆる学問探究の媒体でもありますから、大学で学ぶ学生にとってどの学部、どの専攻であれ、自らの母語を磨き、他言語（外国語）を学習することは不可欠です。そのなかでも特に言語文化メジャーでは、一人ひとりが言語の良き使い手であると同時に、言語のありのままの姿を客観的に見つめ、言語の多様性と普遍性を知ることを通して人間の文化を洞察し、探究することを目指します。言語文化を学び、大いに視野を拓け、自身の世界を拡大し、創価大学での学びをより実りのあるものにしていかれることを期待しています。

【表現文化メジャー】

① 履修のしかた

表現文化メジャーは 大まかにいうと以下のような内容を研究していくメジャーと言えるかもしれません。

- (1) 文学研究および文芸批評理論を基盤としながら、文学作品、舞台芸術、コミック、映像、アニメーションなど、幅広く表象芸術を研究対象とし、それぞれの作品に内在する芸術的価値や芸術技法に肉薄し自身の感性を陶冶していく。
- (2) 個々の作品研究に従事し、在学期間に論文執筆もしくは卒業制作に取り組んでいく。3. ジャンルや国を越え、芸術作品を幅広く鑑賞し表現技法を学び、自分自身の研究やライフ・デザイン（自分の人生設計）の確立に役立てていく。

これまでの大学のコースやカリキュラムでは、日本文学、英米文学、ドイツ文学、フランス文学など個別の言語文化をそれぞれ研究するように組み立てられてきたのに対して、本メジャーには日本文学・日本文化はもちろん、英米文学・英米文化、ロシア・ヨーロッパの文学・文化、そして、映画論、文芸創作、演劇論、サブカルチャー論などの言語文化やジャンルなどを横断した幅広い科目が用意されております。もちろん、この中から、個別の言語文化に焦点を絞った自身の履修モデル（日本、英米、ロシア・ヨーロッパなど）を組み立てて行くことも可能ですし、国を越えて（日本と英米、日本とロシア・ヨーロッパ、英米とロシア・ヨーロッパ）など小説、演劇、映画、その他の表象作品を幅広く研究することも可能です。

まず、本メジャーのイントロダクトリー科目には「表現文化論入門」と「世界文学への招待」があります。表現文化メジャーに進むことを希望される方は、この2つの科目の履修をすることが望ましいです。

次に、ベーシック科目およびアドヴァンスト科目の履修について説明します。

I. 文化横断型の履修モデル（ベーシック及びアドヴァンスト科目）

ベーシック科目のうち、上記で示したように日本文学・日本文化や英米文学・英米文化など個別の文化を集中して履修することも可能ですし、文化横断型に複数の分野から履修することも可能です。例えば、「日本古典文学概論」・「日本近代文学概論」・「英米文学講読Ⅰ」・「英米文学講読Ⅱ」・「イギリス古典文学史」・「ロシア文学」・「ヨーロッパ文学」・「映画論」などを履修するパターンも考えられ

ます。アドヴァンスト科目についても同様なパターンが考えられますが、基本的には自分が所属する演習（ゼミ）の先生が示した履修モデルに従った履修を組んでいくのが望ましいです。表現文化メジャーの研究の方法論を学んで卒業論文を作成していく学生は、「文芸批評Ⅰ：詩の分析と作詞法」・「文芸批評Ⅱ：小説・映画の分析法」、小説を書いていきたい学生は「文芸創作Ⅰ」・「文芸創作Ⅱ」を自分の履修モデルに加えるようにしてください。

ベーシック科目

「文芸批評Ⅰ：詩の分析と作詞法」・「文芸批評Ⅱ：小説・映画の分析法」・「文芸創作Ⅰ」・「文芸創作Ⅱ」・「日本古典文学概論」・「日本近代文学概論」・「日本古典文学講読」・「日本近代文学講読」・「演劇入門」・「英米文学講読Ⅰ」・「英米文学講読Ⅱ」・「ロシア文学入門」・「神話とフォークロア」・「ヨーロッパの文学」・「文化記号論」

アドヴァンスト科目

「サブカルチャー論」・「文芸創作演習」・「演劇表現演習」・「国語科教育法Ⅲ」・「国語科教育法Ⅳ」・「英米児童文学研究」・「演劇論」・「英語翻訳演習B」・「ロシア文学」

Ⅱ. 個別文化集中型

次に個別文化集中型の履修モデルについては以下のようなタイプが考えられます。

(1) 日本文学日本文化群

ベーシック科目

「文芸批評Ⅰ：詩の分析と作詞法」・「文芸批評Ⅱ：小説・映画の分析法」・「文芸創作Ⅰ」・「文芸創作Ⅱ」・「日本古典文学概論」・「日本近代文学概論」・「日本古典文学講読」・「日本近代文学講読」・「書道Ⅰ」・「書道Ⅱ」・「日本文学史」・「日本語コミュニケーション論」

アドヴァンスト科目

「日本語の表現」・「日本文学特講A」・「日本文学特講B」・「日本文学特講C」・「日本古典文学作家作品論A」・「日本古典文学作家作品論B」・「日本近代文学作家作品論A」・「日本近代文学作家作品論B」・「漢文学特講Ⅰ」・「漢文学特講Ⅱ」・「サブカルチャー論」・「文芸創作演習」・「演劇表現演習」・「国語科教育法Ⅲ・Ⅳ」・「文化記号論」・「ジェンダーの社会学」

(2) 英米文学英米文化群

ベーシック科目

「文芸批評Ⅰ：詩の分析と作詞法」・「文芸批評Ⅱ：小説・映画の分析法」・「文芸創作Ⅰ」・「文芸創作Ⅱ」・「演劇入門」・「英米文学講読Ⅰ」・「英米文学講読Ⅱ」・「英米文学概論Ⅰ」・「英米文学概論Ⅱ」・「イギリス古典文学史」・「イギリス近代文学史」・「英語音声学」・「アメリカ文学史」・「英語

翻訳演習A」・「英語学概論Ⅰ」・「英語学概論Ⅱ」・「中国文学」・「日英語比較概説」

アドヴァンスト科目

「英米児童文学研究」・「演劇論」・「英語翻訳演習B」・「文芸創作演習」・「演劇表現演習」・「英語科教育法Ⅲ」・「英語科教育法Ⅳ」

(3) ロシア・ヨーロッパ文化群

ベーシック科目

「ロシア文学入門」・「ヨーロッパの文学」・「映画論」・「神話とフォークロア」・「英語科教育法Ⅰ」・「英語科教育法Ⅱ」・「美学美術史」

アドヴァンスト科目

「ロシア文学」・「ロシア語文学講読Ⅰ」・「ロシア語文学講読Ⅱ」・「英語翻訳演習B」・「中東文化論」・「ロシア語学Ⅰ」・「ロシア語学Ⅱ」・「文芸創作演習」・「演劇表現演習」・「人間学外書講読Ⅰ」・「人間学外書講読Ⅱ」

② 他メジャーとの関係

ダブルメジャー／マイナー制度を利用することによって、表現文化メジャーだけでなく他のメジャーとの掛け持ちで専門性を極めて行くことが可能です。文学部の特徴的な学びのスタイルですので、ぜひとも推奨します。表現文化をメジャーとし、語学系あるいはディシプリン系のメジャーも同時に履修することが可能ですし、他のメジャーをメジャーとし、表現文化メジャーをマイナーとして選択することも可能です。

③ 表現文化メジャーの特徴と進路先について

表現文化メジャーの卒業要件を収め卒業していった学生の中では、番組制作などのマスコミ分野に進出していった卒業生、大手出版社主催の文学賞を受賞し作家デビューを果たした卒業生、映画やテレビドラマの助監督を務める卒業生、あるいは、舞台や映画で俳優として活躍する卒業生もおります。もちろん、卒業生は、そのような華々しい分野だけでなく、教職、一般就職をはじめ、さまざまな分野で活躍しております。

また、卒業研究においては、卒業論文の代わりに卒業制作として小説や戯曲を書いたり、自分なりの研究の成果を創作、あるいは、表現という形で完成させていくことが可能になります。

④ 学生へのメッセージ

学びたい学問を自分で選択し、自分らしい学びのスタイルを確立することが求められる文学部では、4年間の学びを自分自身のライフスタイルの形成に結びつけていくことが可能となりますが、表現文化メジャーはそのような文学部が目指す理想を地（じ）で体現していくメジャーと言えるのではないかと思います。さらに、表象芸術作品の研究をしてだけでなく、現役作家による小説指導や、舞台芸術で活躍する専門家による演劇指導も受けていくことが可能です。自分らしい生き方のスタイルを確立されたい方はぜひ表現文化メジャーにお越しください。

【社会学・人類学メジャー】

① 履修のしかた

社会学・人類学メジャーは、社会・文化系の科目群—理論、歴史、都市、宗教、メディアをテーマとした社会学研究、文化・社会人類学研究、国際関係・平和紛争研究、ポピュラーカルチャー研究、中国研究、社会福祉研究などの専門領域—で構成された分野となります。

文学部のすべての科目は、イントロダクトリー科目、ベーシック科目、アドヴァンスト科目の3つのカテゴリーに分かれていますが、社会学・人類学メジャーの科目も上記の専門領域がこのカテゴリー一別に配置されています。

はじめに、**イントロダクトリー科目**で履修が望まれる科目をご紹介します。まず、社会学・人類学メジャーに関心のあるすべての方は、「**社会・文化研究への招待**」を履修するようにしてください。

次に**ベーシック科目**で履修が望まれる科目をご紹介します。すべての方に履修を勧める科目として、「**社会学概論：人間**」「**文化人類学**」「**国際交流と日本社会**」があります。

また「**社会調査の基礎**」「**Anthropological Approached to Contemporary Japan**」「**現代文化人類学**」「**人類学的地域研究**」「**Comparative Culture: Anthropology**」「**比較文化Ⅰ**」「**比較文化Ⅱ**」「**比較文化史概論**」「**国際関係論**」「**ジャーナリズムの社会学**」「**マンガの社会学**」「**家族の社会学**」「**現代宗教の社会学**」「**中国社会文化概論**」「**現代ロシア概論**」などから、各自の関心領域に応じて履修してください。

最後に**アドヴァンスト科目**で履修が望まれる科目をご紹介します。

3年次の演習Ⅰ～Ⅱと4年次の演習Ⅲ～Ⅳ、卒業研究Ⅰ～Ⅱは必修科目です。すべての方が履修登録してください。卒業論文の作成に挑戦したい方は、指導教員と相談し、許可を得たうえで、選択科目の「**卒業研究Ⅲ（論文作成）**」を履修してください。なおなお卒業論文の作成との関係では、方法論を教える「**サーヴェイ調査実習**」「**フィールド調査実習**」などの履修もお勧めします。

また、「**教育の社会学**」「**歴史の社会学**」「**マンガ・児童文化探究**」「**ディベート日本学**」「**サブカルチャー論**」「**メディア論**」「**ジェンダーの社会学**」「**現代宗教の社会学**」「**民族誌的研究**」「**ポスト・コロニアル人類学**」「**科学・技術の人類学**」「**平和学**」「**国際社会論**」「**日本政治外交史**」「**日本政治思想**

史」「地域コミュニティ論」「教育史 A」「法史学（日本法史）」「日本経済史」「Special Lecture A」「Special Lecture B」などから、各自の関心領域に応じて履修してください。

② 他メジャーとの関係

社会学・人類学メジャーはほかの多くのメジャーと同様に、その他の領域の学問と相性の良い学際的なメジャーです。社会学は従来社会科学として位置付けられていますが、文化人類学は伝統的には人文科学にカテゴライズされており、歴史学、哲学、言語学などとも深い関係があります。社会・文化・歴史・哲学・言語などをあつかう専門領域を、メジャーまたはマイナーにすることで、より深い学びが可能となるでしょう。

③ 留学・教職その他

現代社会を題材に文化や人間について広く学べる社会学・人類学メジャーでは、異文化経験を前提とした短期・長期の海外留学や海外研修への参加を勧めています。現地での経験は学問に関するより深い考察につながるでしょう。

教職に関し、社会学・人類学メジャーでは、中学 I 種の社会、高校 I 種の公民、一部地歴の免許取得に必要な科目を提供しています。グローバル化する現代日本において、グローバル市民として活躍できる教員養成をサポートします。

④ 学生へのメッセージ

社会学・人類学メジャーは、専門的視点から、社会によって見えなくなっているもの、文化によって見えなくなっているものを見えるようにしてくれる学問領域です。換言すれば、社会における常識や正義、規範が誰によってどのようなプロセスで成立しているのか、といったテーマに切り込み、その過程やそこでの陥穽を分析することで、よりよい秩序の構築をめざすための発想力や分析力、さらには発信力を涵養する学びを共有しています。現代社会の諸問題を共に考え、よりよい社会の構築をめざしていく人材をめざし共に学んでいきましょう。

【多文化共生・平和創造メジャー】

① 履修のしかた

多文化共生・平和創造メジャーでは様々な文化の違いと素晴らしさを理解し、すべての人を大切にする社会をどう実現するかを学ぶことができます。その学び方も多様ですが、主に以下の3つの学び方をお勧めします。

- (1) 多様な「文化」を学びたい＝言語学、文学、表現文化関連科目を中心に履修する
- (2) 多様な「人間」と「社会」を学びたい＝歴史学、社会学、人類学関連科目を中心に履修する
- (3) 誰もが大切にされる社会の在り方を学びたい＝平和学、倫理学、社会福祉学関連科目を中心に履修する

専門科目を学び始めるにあたって入門科目である**イントロダクトリー科目**を履修してください。多文化共生・平和創造メジャーに関心のある方には「**多文化共生と平和創造**」の履修をお勧めします。

そのうえで、**(1)<文化>**に関心のある方は「**表現文化論入門**」や「**言語文化入門**」もお勧めします。**(2)<社会>**に関心のある方は「**歴史と社会**」や「**社会・文化研究への招待**」も履修してみてください。**(3)<平和・共生>**に関心のある方は「**社会福祉入門**」の履修をお勧めします。

次に基礎的な内容となる**ベーシック科目**で履修が望まれる科目をご紹介します。当メジャーを専攻する方は「**多文化共生論**」を履修してください。

そのうえで、**(1)<文化>**に関心のある方は、「**文芸批評Ⅰ：詩の分析と作詞法**」「**文芸批評Ⅱ：小説・映画の分析法**」「**比較文化Ⅰ**」「**比較文化Ⅱ**」「**英米文学概論Ⅱ**」「**中国文学**」「**日本語教育概論Ⅰ**」「**日本語教育概論Ⅱ**」「**日英語比較概説**」「**文化記号論**」「**多文化共生論**」などから、各自の関心領域に応じて履修してください。

(2)<社会>に関心のある方は、「**歴史学概論**」「**比較文化史概論**」「**歴史と人間**」「**歴史と地域社会**」「**東アジアの文化交流**」「**神話とフォークロア**」「**ロシアの歴史と文化**」「**社会調査の基礎**」「**文化人類学**」「**社会学概論**」「**国際関係論**」「**国際交流と日本社会**」「**現代文化人類学**」「**宗教社会学**」「**現代社会論入門**」「**人類学的地域研究**」「**マンガの社会学**」などから、各自の関心領域に応じて履修してください。

(3)<平和・共生>に関心のある方は、「心の哲学」「倫理学概論」「歴史と人間」「文化人類学」「社会学概論」「国際関係論」「国際交流と日本社会」「現代文化人類学」「宗教社会学」「現代社会論入門」「地域福祉と包括的支援体制Ⅰ」「地域福祉と包括的支援体制Ⅱ」「児童福祉論Ⅰ」「児童福祉論Ⅱ」「障害者福祉Ⅰ」「障害者福祉Ⅱ」「高齢者福祉Ⅰ」「高齢者福祉Ⅱ」「ピア・サポート実践Ⅰ」「ピア・サポート実践Ⅱ」などから、各自の関心領域に応じて履修してください。

最後により専門性の高い内容の**アドヴァンスト科目**で履修が望まれる科目をご紹介します。

3年次の演習Ⅰ～Ⅱと4年次の演習Ⅲ～Ⅳ、卒業研究Ⅰ～Ⅱは必修科目です。すべての方が履修登録してください。卒業論文作成に挑戦したい方は、指導教員と相談し、許可を得たうえで、選択科目の「卒業研究Ⅲ（論文作成）」を履修してください。

(1)<文化>に関心のある方は、「社会言語学」「日英語比較研究」「多言語社会と言語政策」「演劇論」、「ロシアのフォークロア」「サブカルチャー論」「美学美術史」「民俗学」「キリスト教文化史」、「東アジア社会文化論」「中央ユーラシアの歴史と文化」「東欧の歴史と文化」などから、各自の関心領域に応じて履修してください。

(2)<社会>に関心のある方は、「多言語社会と言語政策」「ジェンダーの社会学」「メディア論」「歴史の社会学」「現代宗教の社会学」「サーベイ調査演習」「フィールド調査実習」「ディベート日本学」、「サブカルチャー論」「民族誌的研究」「ポスト・コロニアル人類学」「科学の人類学」「平和学」「人間の安全保障」「国際社会論」「東アジア共同体と安全保障論」「イスラーム文化論」「現代中国論」「ロシアの社会」「宗教学」「科学哲学」「キリスト教文化史」「東アジア社会文化論」「中央ユーラシアの歴史と文化」「パブリック・ヒストリー」「東欧の歴史と文化」などから、各自の関心領域に応じて履修してください。

(3)<平和・共生>に関心のある方は、「多言語社会と言語政策」「ジェンダーの社会学」「メディア論」「現代宗教の社会学」「サーベイ調査演習」「フィールド調査実習」「ポスト・コロニアル人類学」「科学の人類学」「平和学」「人間の安全保障」「国際社会論」「東アジア共同体と安全保障論」「多文化共生ワークショップ」「平和創造ワークショップ」「宗教学」「科学哲学」「社会保障Ⅰ・Ⅱ」「福祉サービスの組織と経営」「貧困に対する支援」「保健医療と福祉」「権利擁護を支える法制度」「人体の構造と機能及び疾病」「刑事司法と福祉」などから、各自の関心領域に応じて履修してください。

② 他メジャーとの関係

多文化共生・平和創造メジャーは様々な学問分野を取り入れた学際的なメジャーですので、他の多くのメジャーの学びと重なりあいます。特に、言語文化、表現文化、社会・人類学といったメジャーを同時に学ぶことも可能です。

③ 留学・教職その他

多文化共生・平和創造メジャーでは異文化理解を体験的に学ぶ貴重な機会である留学や海外研修を短期・長期に関わらず推奨しています。

教職については、中学 I 種の社会、高校 I 種の地歴・歴史、公民の免許取得に必要な科目を提供しています。

④ 学生へのメッセージ

「多文化共生と平和創造」メジャーでは、SDGs で取り組まれている以下の課題について様々な専門分野から横断的に学ぶことができます。

- ①人間を含めたすべての生物が唯一生存できる世界＝<地球>を持続すること
- ②あらゆる人が尊厳をもって生きる自由を享受できる社会を実現すること
- ③あらゆる人が相互に尊重し、共生できる社会を実現すること

本メジャーは創価大学の掲げる人間主義、生命の尊厳の追究という思想を基盤として、その実現を妨げる要因を科学的に分析・理解することを学び、さらに多様な言語・文化の在り方を理解することで課題を克服する方法を生み出す力を身につけることができます。